Vol. 35 No. 10,228 Thursday December 19 1940 TAIRIKU NIPPO 昭和十五年十二月十九日（木曜日）第一乃二百四拾六號

大陸日報
TAIRIKU NIPPO
(THE CONTINENTAL DAILY NEWS)
PUBLISHED BY
TAIRIKU NIPPO SHA LTD.
215 & 215 CORDOVA ST. E.
VANCOUVER B.C.
電話マリン五六五一
晩香坡市東カドバ街二一三—二一五
本紙定價（前金）
壹ヶ月七拾五仙
六ヶ月四弗弐拾五仙
壹ヶ年八弗弐拾五仙
發行所 株式會社 大陸日報社
社長 山崎寒晩

駐ドイツ大使に大島中將返ざき

三國同盟締結に陰の活躍買はる

東京十九日（同盟）—獨伊三國盟により軸に緊密の度を加へた日獨間の關係の新段階に對處すべき重大任務を負ふ新駐獨大使陸軍中將大島浩氏が返り咲いた、現在の日獨關係の現狀からみて駐獨大使として大島中將はその經歷手腕から見て唯一無二の適任者であると云つても過言ではあるまい、同中將は昭和十三年末現外相當時約四ヶ年に亘るドイツ駐在武官から駐獨大使に任命されるや、白鳥駐伊大使と共に三國同盟締結當時の同盟結成に盡瘁して已まなかつたが、昨年八月の獨ソ不可侵協定成立により平沼內閣總辭職となるや、昨年十一月締結とゝもに官を辭したが、獨逸側は固く主張してゝも遂にその主張も敗れ、昨年十一月締結とゝもに官を辭したが、獨逸側は固く主張して遂に彼の眞意は去る九月の日獨伊三國同盟成立となつて實現したが、その締結にあたつては白鳥前駐獨大使と共に陰の人として盡力した、松岡外相と同中將の交誼から結ばれたものであり、三國同盟成立によりドイツ大使更迭の必要性が增したので、松岡外相は大島中將の再起用を決意、同中將に交渉懇願の結果外交方針などについて兩者の意見が完全に一致、同中將の快諾を得たものであるが、ドイツ側としても同中將の再任は極めて歡迎するところであり日獨兩國間の新段階にわつて大島新大使の活躍は期待される

親善を深めてゐるが、この大使館昇格を祝して明廿日獨國に交驩記念放送を行ふことゝなつた

この放送は午前八時（バンクーバーの午後三時）から四十分間ユーケーを通じて行はれるが、プログラムは先づ日本側から君が代、松岡外相の挨拶、モーレー在京アルゼンチン大使の挨拶、音樂などが送られ、ついでアルゼンチン側から國歌、フリオ・アーロー外相の挨拶、在ブエノスアイレス大森代理大使の挨拶音樂などの放送がある

印度で關稅引上

大阪十九日（同盟）—カルカッタ發大阪府立貿易館入電によれば印度政廳は來年一月一日以降殆んど全商品に亘つて輸入關稅の引上げを行ふことゝなつた

日米戰は人類滅亡

野村大使の歡送會席上で

松岡外相・米に警告

東京十九日（同盟）—野村新駐米大使の歡送會が日米協會主催で十九日帝國ホテルに開かれ席上グルー米大使の歡送挨拶、松岡外相の新大使紹介を兼ねた別項のごとき深刻なる内容を含にして和氣藹々裡に散會した

◇

松岡外相はその冒頭で先づ日米關係悪化の基本原因が日本の自覺に對する米國の誤解にあるとの指摘したのち日本の聖戰が世界平和を目指す東亞新秩序建設にあることを闡明、これは時が時だけに明瞭な通牒と日獨伊同盟もかゝる平和を目的とするものであり日本はその建設的事業遂行に對する如何なる障碍にも斷乎たゝかはぬと日本の確固たる態度を示し地域的新秩序の例としては米國が過去に企てたパナマ會議もそれであると略說した

ついで『日米間に戰爭起らばそれは人類滅亡を意味する恐るべき惨禍である』と米の輕率に警告し、また支那の運命といふ問題に對する米國民の態度は感情的なものだが日本にとつては死活の問題だと述べ、最後に南京政府の誕生によつて東亞に新秩序が初めてふるとて米國が大所高處から事態の眞相を把握すべきことを要望、日米互いに大局的に一切の現實を直視して相互の立場を同情と協調的精神をもつて理解することが肝要であると述べた（寫眞は松岡外相と野村大使）

日亞間に交驩放送

東京十九日（同盟）—我が國と南米の友邦アルゼンチンとは去る十二月一日兩國の公使館をそれぞれ大使館に昇格、ますます親善を深めてゐるが、この大使館昇格を祝して明廿日獨國に交驩記念放送を行ふことゝなつた

南京政府の財政益す強固

國立銀行を設立

南京十九日（同盟）—中央儲備銀行の設立は十九日の中央政治委員會議において決定をみたので國民政府は廿一日新銀行創立總會に於ける第一回理事會を南京に召集し設立に關する一切の手續きを了したゝへ明年一月六日を期して業務を開始することになつた

◇

別掲汪政部長は次の如き聲明を發し新銀行の性格、經營方針などその全貌を明かにし國府今後の金融經濟政策に對する全國民の協力を要望した

經濟の復興、金融の健全を圖るは國民政府の重要施政方針である、しかして之が遂行には完全なる國家銀行の組織を必要とす、事變以來貨幣の低落、物價騰貴により人民は水火の中に呻吟し經濟は日に崩壞衰微の狀を呈しつゝあり、之を匡救するため本部は還都の初めにあたり貨幣價値の維持、金融の安定につき宣言し次いで中央銀行籌備委員會を組織し、以來愼重企畫したるが、基金の準備、營業の方針および紙幣發行など一切の準備に引つゝたるをもつて名稱を中央儲備銀行と定め、こゝに民國三十年一月六日を期し首都において正式成立、營業を開始するとゝもに重要都市に分行を設立することゝした發行紙幣は新法幣として納稅、爲替その他費一切の取引には皆これを行使せんとす、なは金融市場の動搖防止、人民資產の保證をはかるため現在流通の各種舊法幣は當分中央儲備銀行發行の法幣と等價流通を認め、然るのち徐ろに調整を圖り統一を行ふべく、萬一重慶側發行の法幣の數量ますゝ膨脹、貨幣價値下落、市場を攪亂し民生に影響を與ふることあらば既に準備しある有効なる辦法を發動し、以て健全を期すべし、日本軍票に關しては事變繼續中の特殊事態なるにかんがみ相互に充分協力しお〳〵その負ふ所の使命をとげるを得さしむ

切手貯金も復活

郵貯は五十錢より四千圓迄に伸びる！國民貯蓄

東京十九日（同盟）—聖戰遂行の底力として國民貯蓄の實績は年々すばらしい躍進ぶりを示し百二十億貯蓄の目標目指して堂々の進軍を奏でゝゐるが、現在の郵便貯金制限額は大正九年改正當時の十錢以上三千圓以下のまゝで今日のやうに貯蓄目標が增加してゐる際、こんな小額では徒らに窓口事務の繁雜を增し國民の貯蓄能力を制限するばかりなので、今回遞信省では郵便貯金制限額を五十錢以上四千圓以下に引上げることになり、大藏省と協議のうへ來る議會に『郵便貯金法中改正法律案』として提出、通過すれば明春四月より實施することになつた

なほこれとゝもに昔懷かしい『切手貯金』も再登場する、これは大正十二年の震災當時で實施され子供達の貯蓄心をそゝつてゐたもので一錢、二錢、三錢の郵便切手を臺紙に貼り一圓に達した時貯金帳に記入してゐたものだが、貯金額の引上げとゝもにこれを五錢切手、十錢切手に引上げて、五十錢單位乃至一圓單位の切手貯金にしようといふのである

安井內相辭任か

翼賛會強化、專任總務局長へ

東京——大政翼賛會の中樞機構は發足以來有馬事務局總長の總務局長兼任の下に國內新體制の推進を行つてきたが、最近漸く政界各方面において翼賛會の現在までの現れは各種の人事に對し私的觀念をさし挾むものとして非難的な批評が昂まるに至つた

近衞首相としてもこの種の批評に對しては愼重に考慮する所あり、更に翼賛會の上層人事を強化することは國防國家の翼賛姿勢確立の體制を推進する建前において首相自らも從來より主張してきた政治的筋金を入れることにもなるので、總務局長を專任たらしめることは當面の要務なりと思考するに至つたので、豫てその人選につき各方面の關係を考慮詮衡を進めてゐたが、このほど密に有馬事務局長の意向を徵した結果、現內相安井英二氏の出馬を促すことが最も適當と認められるに至つたよつて近衞首相はこのほど首相官邸に安井內相を招致、約二時間にわたり懇談、その決意を徵した結果、同氏も漸く翼賛會入りの決意を固めるに至つたので近く安井氏の內相辭任、專任總務局長が實現することゝ成るものとみられるに至つた（寫眞は安井內相）

◇大陸風景◇

大島さんの駐獨大使返り咲き三國同盟が出來た今日、故郷へ歸るやうなもの

……▽……

もし日米戰はは、それは人類滅亡を意味する大惨禍と、松岡外相の演說……

……▽……

吾人はかゝる大不幸事の起らざるを望むや切なり、兩國政府當局の善所を希望

……▽……

近衞人事に私的觀念さし挾むものありとして世間に非難あり、好い事ではない

……▽……

南京新政府に中央銀行が生れた、健全に育てば、新政府の經濟基礎は固まらん

新シベリア鐵道

第二工事明年竣工

モスコー十九日（同盟）—ソ聯鐵道當局はさきに革命三十周年記念として千九百四十九年十一月七日までに第二シベリア鐵道建設の計畫を發表したが、十七日共產黨西部シベリア委員會機關紙ソビエツカヤ・シビリ紙はその一部をなすスターリンスク・バルナウル間二百三十キロ（約百四十マイル）が明年中に完成の豫定である旨次のごとく發表した

第二シベリア鐵道の一部たる西部シベリア、クズバス工業地帶の中心スターリンスクとその西方トルクシブ鐵道沿線バルナウルとを結ぶ全長二百三十キロの鐵道建設計畫は明年一月一日完成、工事は明年中に竣工の豫定である、第二シベリア鐵道建設の第一段階カルタルイ・アクモリンスク間は本年初多既に完成してをり、第二段階たるこのスターリンスク・バルナウル間の新線が完成した曉にはスターリンスクはバルナウルを通じて直接中央アジア諸共和國および南部諸地方と結びつき得ることゝなり、その國防產業ならびに交通上の意義は甚大である

電氣及ガス
ケチン用レンチ
谷形
商秘品モーフアド製
お求め前是非
ヤマタキシー

SUN LIFE OF CANADA
電話が變りました
マリン
七六五六
中野保險
下の電話番號を切り取つて電話表に貼りつけて下さい
中野保險 MA. 7656
300 E. Cordova St.

酒の精
輸入元 田村商會
曉市ダンレビー街二一三
郵函一三〇
瓶一仙五十三

紙類及文房具
卸商
曉市及ヴイクトリア
スミス、デビツドソン、エンド、ライト會社
SMITH, DAVIDSON & WRIGHT, LIMITED

諸種製材
御入用の節は日本人販賣人山崎半次に御相談下さい
會社の電話番號
二七四〇—二七四一
新西院
モハーク製材所
MOHAWK LUMBER CO.
New Westminster B.C.

日加貯蓄
◇貯蓄預金
◇當座預金
◇信託預金
◇公債賣買
◇最近送金締切日 十二月廿七日 十二月卅一日
日加合同貯蓄會社
晩香坡市ウエウエ街三九八
電話マリンテニ〇四〇〇
JAPAN AND CANADA TRUST SAVINGS CO.
P. O. Drawer 130 398 Powell Street
Vancouver, B. C.

Monarch Life Assurance Co.
非常の場合家族を救援、壯年時に事業の援助、子弟の教育完成、老後のハッピーライフ
當社を御利用下さい
モナーク生命保險會社
支社 晩香坡市ローヂヤスビルヂング内入〇一—九
日本人部代理 後藤金平
事務所 マリーン九五四七
電話 自宅 ハイランド〇七七ハ

THE ROYAL BANK OF CANADA
East End Branch
Vancouver, B.C.
▲預金 總て銀行取引には當ローヤル銀行と御決めり下さる樣御願ひいたします
當行では皆樣に充分御滿足をお與へする事が出來ると確信してをります
▲送金 多數の日本內地銀行と取引して居る當行では日本送金相場を非常に敏速に知る事と存じます
當行では日本人事務員を雇用して居りますから日本人の取引には非常に便宜で殊に地方に在住なさる方では邦文の手紙で簡單に用を達する事が出來ます
▽▽總資產 九億弗
資金及積立金 五千五百萬弗
ローヤル銀行 メーン街及ペスティング街角

The Yokohama Specie Bank
822 3rd Ave., Seattle
Elli. 3575 P.O. Box 1917
◎資本金 壹億圓
◎積立金 壹億四千二百十五万圓
横濱正金銀行
シアトル支店
○郵便送金＝無手數料にて日本內地、滿鮮、其他へ迅速且つ確實に送金いたします
○普通送金＝送金手形或は電信爲替世界各地向取組
○圓貨定期爲替手形＝利息、六ヶ月以上年三分三厘
○米貨定期預金＝弊行桑港支店に御取次致します
期間は一箇月以上一ヶ年迄
利息は弊店御取次の日より附けます

THE SUMITOMO BANK OF SEATTLE
802 3rd Ave., Seattle. Wash
日本向送金手形、郷里送金は左記のローヤル銀行支店にて御取次致しますから精々御利用下さい
晩香坡イーストエンド、スプストン
エウエストミンスター、マーボーベ、ラドナー、カムバランド、ビクトリア等
シアトル住友銀行
弗定期預金 六箇月以上年二分二厘
弗特別定期（十年書替不要）年二分二厘
弗貯蓄預金 年二分
弗積貯金 年二分
小切手勘定 無利息
米金預金
日本向定期爲替手形 六ヶ月以上年三分三厘

自動車保險
田中保險代理社
晩市バウエル街四一五
電話 ハイランド二五七一

電話九一四

女性本願

菊池寛

（58）

めぐむ未来（二）

容は、なほわかるく、ビルディングの窓々の灯が、輝き始める頃であつた。

日比谷の通りを、ニヤ映画劇場の方へ歩いてゐた。

電車ホールを左に曲ると、何時か典子は、杉谷と肩を並べて四五間先を歩いてゐた。

杉谷さんと云ふのは、典子さんの結婚相手の一人ではないかと美鋼子は思つた。

「貴方、何をしていらつしやいますの。」

典子に囁いて、少し後に下つた美鋼子に、聞しかけた。

こんな場合は、美鋼子には苦手であつた。

「何もしないで、楽してゐますわ。」

美鋼子は少し疲くなつてゐた。

「いや――お嬢さまと二人で、とても楽しく楽していらつしやるのぢやありませんか」

と、郁郎も、てれたやうに云つた。

「何もすることがないことは、見たい紙がしますわ。貴なんかも、その嘘で紙の源のやうですわ。」

「僕ア典子を見てゐるせゐか、貴女は家庭的にも、淑女方ちやないかと思ひますよ。」

「――――」

郁郎は、無口な野卒なのに、今日は別人のやうに、おしやべりであつた。

美鋼子は、人一倍敏感な感情で、郁郎が、自分に對して、微妙な好意を持つてゐることを感じた。

が、彼女は、郁郎について、別に何も考へてはゐなかつた。たゞ、郁郎のおだやかな上品な性格を好きではあつた。

だから、かうして好意を示されると、のびゝとした明るい感じにはなつた。

映画館の前で、典子が切符を買つて、二人を待つてゐた。

郁郎といふ順に、腰をかけた。

ボイが、漫画をやつてゐた。

ボイが、赤ん坊を連れて散歩してゐると、その赤ん坊が、動物園の檻の中に、まぎれ込み、ボイが赤ん坊を救ひ出すために、象や虎などと大格闘を演ずる映画であつた。

漫画の次ぎにニュースがあり、それが済んでから休憩があり、美鋼子達は、外へ出た。

典子は、今日は美鋼子と郁郎とを二人きりにするやうに、態と別々に行動してゐるのか、それとも杉谷と二人きりで話したいのか、杉谷を誘ふやうにして、美鋼子の傍から離れると、杉谷と連んで廊下をぶらついてゐた。

美鋼子が一人でトイレットに行き顔を直して出て來ると、郁郎が彼女を待つてゐたやうに、廊下に立つてゐた。郁郎は先きに立つて人影の少い方へ歩きながら

「貴女が、外出なさるときは、お母さんは、お寂びしいでせうね。」

と、靜しかけて來た。

「ゝゝさうなのです。でも、母は御本を讀むのが、とても好きなのです。」

「どんな御本です？」

「フランス文學が、好きですわ」

「お母さんは、インテリですね」

「ゝゝさうよ。頭腦も、私なんかよりずーつと、いゝの……」

「時々、貴女と喧嘩なんか、なさいますか。」

「いゝゝ。ちつとも、本當の母子といふよりも、姉妹のやうですわ。私、お母さんになら、何でもお話しするの……」

郁郎は、一寸考へてから……

「お母さまは、再婚なさる意志はないのですか……」

と、訊いた。

「ありますわ。私が、結婚したら、お母さんも結婚なさるつもりらしいわ。」

と、美鋼子は、何のこだはりもなく、明かに答へた。

「ちや、貴女の御結婚の方が、先決問題ですか……」

「私は、どちらでもいゝの……お母さんが、結婚なさつたら、そのお家へくつついて行くつもり……はゝゝゝゝ」

郁郎は、美鋼子の自由な話しぶりを、好もしいと思つた。

◇…都々逸…◇

ベランダに、腰をおろして、故郷を偲びや、肌にひやりとしみる風

▽―△

あなたの分だと、思へば輕い霜の畑に、入れる鍬

▽―△

片手はみ靈が、片手は母が、曳いて五つの、神詣り

▽―△

ふだん着ぢや、あるが肥つてゐるのが自慢、けふを五つの神詣で

香いて嗅ぎたいなら
ウイルス・フアイン
カットに限る
質の良いウアヂニヤ葉はマイルドな口あたりがして何とも云へないフレーバーがあります
ポケットには
二十仙及十五仙包を
家庭には經濟的な半斤入罐を

ちんもち
バウエル街三五七
鈴木菓子店
マリン二〇三六
月刊雑誌資料製本

PURITY BREAD
ロバートソン・ピユリテー・ブレツドを名上り下さい
ピユリテーブレツド は何時も新鮮で固くはなりませんそして保健上にも大變よろしいです
美味しいロールスやゝズバ、皆様の食慾をそゝるケーキ類も澤山ありますが皆科學的に研究して作られて居ります
ピユリテーブレツドは今回新しい經營の下に賣出されてゐるのです
是非御試食下さい
ロバートソン
ベカリー
ROBERTSON'S BAKERIES

正月用品
毎年安心して使つて頂ける
モチ白米
正五十斤入
五弗七十五仙
二斤　二五
五十膳入　三〇
十二膳　一五
各　一瓶　〇五
廿枚　一帖　一〇
日の本竹割箸
赤、黄、塗箸
食紅、青粉、黄粉
半紙
バウエル街三六九　電話シー五二一八―五二一九
何でも揃ふ
前川商店

●米は……米屋へ
値は安くても品は上等
大特價販賣
スシ米 ブルーロース テキサス米 白米 百斤 七、一五 五十斤 三、七〇
特選マルトク印 白米 百斤 五、九五 五十斤 二、九〇
モチ白米 百斤 七、九〇 五十斤 三、九五
日本みかん一箱 白サト 五十斤 三、四五 二十斤 一、四五
（木綿袋入）十斤 七五 （紙袋入）十斤 六五
電話ハイランド〇八八九
米屋商店
647-9 E. Hastings St. Vancouver, B.C.
閉店後不在の時は電話ハイ三三四六アール

自動車修繕 附屬品販賣
晩市メーン街及アレキサンダ街角
晩香坡オート・サービス
井上清治
岩崎章
電話ツリニテー四三四四

年末大安賣り
乗物一切
晩市メーン街一二二　電話ツリニテ五五五九
ターメー自轉車店
バラード街二四一五　電話ベービュー二〇四六

將來の投資は
オイルローヤルテーに
加奈陀に於ける油田の發展は近き將來素晴らしいものが期待されてゐます
詳細は近く發行する「パンフレット」を御覧下さい
希望者は御申込み下さい
クリフトン・シ・クロス（BC）株式會社
グレハムマクドナルド日本人代理部
晩市ハウ街四七五　電話ツリニテー五七六四

VANCOUVER PACIFIC PAPER CO. LTD.
◈紙類一切とり
文房具卸賣商
ハミルトン街一一六八
晩香坡パシフイツク・ペーパー會社
日本人部代理
堀壽次郎
電話　本社マリン二三一一　自宅ハイ三八四四アール

電氣指壓治療
神經痛、胃腸病、婦人病、皮膚病、其他一切
晩市バウエル街三一六
美心院　藤澤さだよ
電話シー一二二四　カドバ街三〇六　自宅マリン八七八九
治療時間　午前九時　午後五時　夜出張

最新式ソーダスト バナー
各種あります
晩市バウエル街五一三

特別意匠
年賀狀調製
御申越次第
見本進呈
惡性流感に
高等風藥
感冒はコジらせると種々の病氣を併發し勝です
輕い内に高等風藥を召上れ……
御手當が早い程早く治ります
高等風藥　八〇―四〇
晩市バウエル街三二一
特約店　新見商會
電話ツリニテ金曜五六

新高等南京料理
日本人諸君の御來店を歡迎
晩市バウエル街二五二
新北京
電話シー五七七四

◈和洋雜貨食料品
晩香坡市バウエル街三三七
蛭崎商店
電話ツリニ〇九九一

自動車修繕
グッドリツチタイヤ
附屬品一切
大勉强で御用命に應じます
ボンデアツク、ビューイツク、ジ・エム・シートラツクの特約販賣店
晩市アレキサンダー街ゴア街角
日本オート
電話　ツリニテ　二八九九

海外渡航の御方及び御歸朝のお方には特に御便宜をはかります
大森屋旅館
横濱市中區花咲町（櫻木町驛前）

日本郵船 C.P.R. アメリカンライン
日本行船切符
C. P. Express Money Order
販賣代理店
横濱正金銀行預金
貯金無手數料取扱
米精製雜貨和洋食料
新西院市
西口商店
電話　寶盛六番一一八八五
住宅九〇九X

カマボコ製造
晩香坡市バウエル街二五三
BC魚店
電話ツリ二七八六　夜間シー三五三八

STEAM CAR WASH
ASK ABOUT OUR FREE GREASING OFFER
WASH YOUR CAR TWICE A YEAR BY STEAM. IT GIVES BETTER LUBRICATION AND LONGER LIFE. A NEAT JOB GUARANTEED.
Steam Wash Prices
MOTOR $1.00
MOTOR & BODY . 1.50
CHASSIS 1.25
" & BODY . 2.00
" & Greasing . 1.75
Motor-Chassis-Body . 2.75
自宅ナナイモ街六　電話ツリニテ五五四五　ハイランド三七七七アール
朝日グラーチ

奉仕的割引
△弊社は創立以來過去廿八年間の日本人諸氏の御愛顧に酬ゆるため
新割引値段
を提供することに致しました、何卒御引立の程御願申上ます
料金は五十弗、七十五弗、九十五弗以上
晩市ダンレビー街三〇四
アームストロング葬儀社
電話ハイランド〇一四一

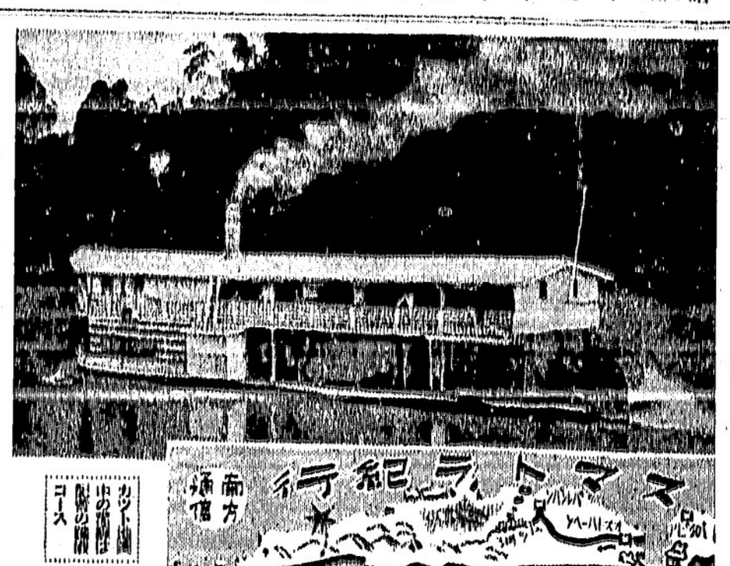
家庭用ポート用金物類
新式ストーブ並附屬品
ケッチン道具各種
電氣器具類及電球
ペイント及バニシ類
大工道具類和洋各種
トタン細工一切並修繕
晩市メーン街二〇八
ビー金物店
電話ツリニテ五五三六

天野兄弟商會
味噌、醤油、清酢
糀、納豆、糀漬
製造販賣元
晩市ダンダス街二一四一
電話ハイランド五五二六

N.Y.K.
1404 4th Ave., Seattle, Wash.
郵船案内
（船名）（入港）（出帆）
平安丸　十二月廿一日　一月三日
氷川丸　一月四日　一月十七日
平安丸　一月八日　二月廿一日
氷川丸　二月廿三日　三月八日
日枝丸　三月廿六日　四月八日
平安丸　四月十六日　四月廿九日
○横濱行三等片道六三弗　往復行六五弗
日本郵船會社シアトル支店
代理店　晩市　L. W. Greer & Co. Ltd.　英市　Great Northern Railway

新焚いて遡航する土人船ポンく蒸氣

行けどもく兩岸は密林



カット説明の説明の説明コーハ

四

船尾の水車が動き出したかと思ふに、ウオレスバアリー氏が眠りする。ランパンの灯が夜空にきらめいてゐた。配置についてから前途は交通遮り明だ。

いくらかの懸念はあるにしても、それは幻想の境を出ない。夫船の不安な第一夜である。まづ眠るより仕方あるまい。ドアにはしつかり鍵をかけた。船はのろ〜と一時間七、八キロの速力で進んで行く。

◆

異様な物音に夢は破れた。いつの間にか眠つてゐたらしい。大地―といふをかしいが、マヤトラの大地が冷えてゐた。ピンショリと汗をかいてゐるのに冷える大地が感じられた。ドシン〜と、下甲板になにものかがぶつかる音である。小窓から外の闇に眼を凝らす。船はまた岸につけられ、クーリー然とした三人の水夫が、岸に積まれた薪を甲板に投げ込んでゐる物音なのだ。

内地の薪自動車ではないが、この川蒸氣船も薪を焚いて進むのだ。川岸の土民は二尺わたりの長さに拵へた薪を細のまはりに整然と積んで船の買入れを待つてゐるのだ。そのさき岸辺のいたるところにこの原始的燃料給所がある。

つた。船は夜も盛も三、四時間おきにこの薪を補給しては進む。またウト〜と眠つた。

航海に船長の内職

夜が明けた。南洋の空はバラ色から忽ちコバルト色に變る。清々しい夜明けの時間は短かつたまた〜く間に太陽の光りが强烈の度を加へてくる。椰子、バナナ、カポック、ブスバ、蘭類の繁茂する緑の岸、悠々たるムシの流れよ。爽快であつた。その風景はどこか昔の記憶にあるやうな氣もした。外見は瀟洒なこの土人船はラヂアボート號といつた。ラヂアとは王の意である。土人船の料理も馬鹿に出來なかつた。本吉のまゝ、悠久につゞく大自然のなかを、わがラヂアボート號が遡つて行く。

ムシ河はこの種の船が十數餘上下してゐる。上下二層、長さ十間、幅二間の小船である。船長は船主から一ケ月四、五百ギルダーの借船料で借りる。上下の甲板は一航一人十ギルダー乃至十五ギルダーで商人に又貸する。下甲板の中央に屋のない出入口がありその近くの甲板に店を開くもの〻賃借料がもつとも高く、上甲板は安い。商人は主として支那人である。この船の上甲板には煙草、清涼飲料水、雜貨、乾物店、また野菜、果實、雜貨店がならび、下甲板には金物食器店、雜貨文房具店があつた。しかしこの又貸料だけでは船長は赤字だ。そこで掛船の半分ほどの船を左舷に寄着して曳きつれ、上流奥地にむかつて米、屋根瓦、材木

土人船不安の一夜

一等運轉士は船先にたつて車輪形の舵を操つてゐる。室を占領されて何處に寢るのかわからない。もう五十に近い。アメリカの俳優ウオレスベアリーを小さくしたやうな性格的な顔だ。うす汚いポロシャツにサロン、それでもさすが船員のたしなみか大きなヤドロンパイプで紫煙をはいてゐる。あたりはすでに暗い。十時過ぎのだ。

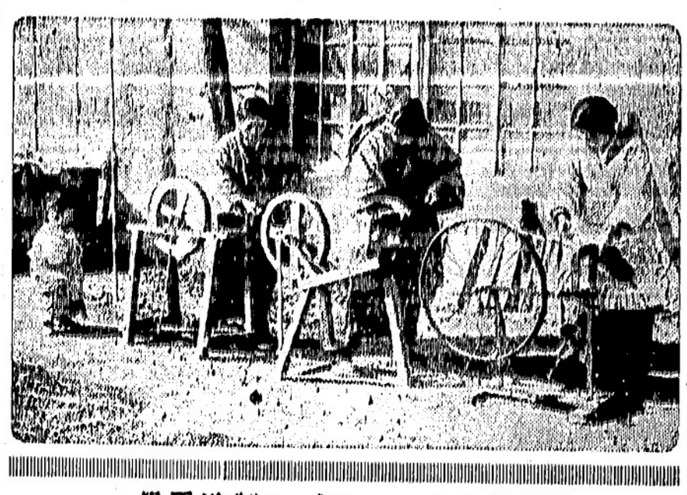
るゆとりはない。これが一等運轉士長の宿命なのだ。

船長の腰には帶刀

ゐるなる程だ、船は倉庫から赤ん坊と米袋をまかんに積込んでゐる。船長がニヤリと笑ふ。小柄な男だ。さすが船長らしく、眞新しいシャツとサロンをつけてゐる。帽はさみにしたクシリ（土人の帶刀）のサヤがすつと頭を出してゐるのは不氣味だが、顔をみるとどんなにたちの悪い男でもなさうだ。

「喧嘩をするつもりか」といくら問ひ糺しても、ひうそ言葉が通じないのだから、詳しいことは何もわからなかつた。わからないまゝに上甲板の船室にある部屋に案内させた。

縦六尺三寸、横八尺ほど、天井は僅かに頭のつかへぬ程度、ベッドだけは男子身動きす



千振村のホームスパン製造風景

冬陽を浴びて、ホームスパン製造

カタ〜〜〜古風な餘韻を殘してゆかしげに糸車はまはる糸はスフか、木綿か、絹糸かそれはまがひもない純羊毛のホームスパン。開拓村千振郷の閑雅なその風景です。北滿は大規模の緬羊には適しないといふひとがあります。しかし適するか適さないかは千振村の人達がやつてゐる事實を見ればわかります。冬季の飼料に枯れ草を十分に貯へておけば、十數頭の緬羊飼育は茶飯事。副業として十分に引き合ふのです。牧草萌え出づる五月の候に、羊毛を剪りとり洗毛して貯へておけば、冬の農閑期には家庭婦人にとつて實益を兼ねたこよなき趣味の仕事です。大規模の牧羊、それは開拓に渡る人々に對しての今後の研究問題です。

＝僧房に艶めく女人群像＝
女學生の『禪』修行

來る廿五日(水)廿六日(木)兩日とも午後二時と七時半二回上映―日本人ホールにて

△入場料　大人　五十仙　小人　廿五仙

新光社提供
昭和倶樂部後援

アンペラなどを運び、復路ゴムを主とした土人の物産を運んで運賃をとり、あるひは自ら商ふのであつた。

莊嚴日の出と落陽

バナナ、椰子の木が多くなるとカンポン（部落）の近づいたことがわかる。部落に近づくと水の上につき出た小屋がある。それが土人の便所なのである。日本のいはゆる厠なるものはこゝに語源をもつといはれるものである、やうやく人の入れる廣さだけ板で圍んであるのだが、中にゐる男や女の顔は外部からみることが出來る。そんなのが二三ではない。かと思ふと、その傍で土人が水浴し、女が洗濯してゐる。

ポーポー、と船體に似合はぬ汽笛が喚ぶ。椰子の木蔭で待構へてゐた土人たちがドヤ〜と入り込んでくる。うれしさうだ――この船は彼らにとつて憧れ

であり娯樂であり、無聊の慰めなのだ。

行けども、行けども兩岸に鬱蒼たる密林がつゞく。常夏だからまだいゝやうなものゝ、冬にでもなつたらその荒涼さはやりきれないだらうと思ふ。

ムシ河の日の出と落陽は莊嚴であつた。また思ひ出したやうに百、二百戸の部落があるラヂアボート號は克明にこの部落に立ち寄つて行く。一どしきり土人たちが船一踏み込んで遊び、かつ雜貨品を買ひもとめて行く記者の姿をめづらし氣に眺める若い女もあつた。

日本製絹布の女達

ムシ河畔の土民はスマトラマレー族の名で總稱される。細くわけたらきりがない。服裝はジャバ人と同じくシャツにサロン姿、あるひはメード・イン・ジャパンであらうと思はれる綺麗な人絹布をまとつたハイカラな女がゐる。男女ともジャバ人に比してひどく小ざつぱりしてゐるのが記者にはめづらしい。家屋もジャバ人の家のやうに竹の柱、アンペラの壁ではない。床下の高いのはスマトラ人の家屋共通だが、立派な材木を使つた家が多く、廻り廊下に瀟洒な窓ガラスがしつらへられてゐるのにはひどくビツクリする。ジャバでも、バタヴィアでも町に跳のものが眼につく。だがこの川沿ひの部落の土人は革のサンダルをはき靴をはいてゐるものすらある、前から氣付いてゐたのだが、こゝは豫想以上に民度が高く「文化」の匂ひさへするのである。

寫眞…ムシ河を遡る土人船

絢爛！五大スタアの大饗宴！

維新の黎明に颯爽たる快男子の面目躍如！
阪東好太郎・本郷秀雄
北見禮子・海江田國二
他總出演
大曾根辰夫
演出・衣笠貞之助
松竹下加茂作品

映畫は新光社

謝恩券付大賣出し

過去一ケ年間御引立下さいました皆様への決死的奉仕ぶりを御覽下さい

年末贈答品の御選擇は　先づ近藤へ

贈る方、贈られる方の身になつて仕入れ致しました、ぜひどうぞ！

□れ子様方へ

△セルロイド玩具＝十仙、十五仙のガラくから五〇　七五　九五　一、〇〇　一、二五　一、七五その他
△人形＝市松人形　五〇　一、六五　二、二五
△日本製眠り人形　一、〇〇　二、五〇
△當國眠りママ人形　二、四五　その外人形各種
△函入人形（ドレス各種附）一、二五
△ウエットレス人形（函入）九五　スーツケース形函入　一、九五
△高級グランドピアノ　一、二五　一、六五　二、〇〇　二、四五
△大正琴　一、六五
△モール細工人形　一五　二〇　二五　△同上造花　三五
△金屬製木製各種玩具豐富

□御婦人方へ

△各國化粧品セット＝六五　一、〇〇　一、三〇　一、五〇　二、〇〇　二、五〇　三、〇〇　三、二五　三、七五　四、〇〇　四、二五　五、〇〇　六、五〇　九、〇〇　一三、五〇
△ドレッシングセット＝五、七五　六、二五　九、二五

□殿方へ

△トラベルセット＝四、九七　五、九五
△メネン・ボンド・シエービングセット　一、〇〇
△電氣シエーバー　五、〇〇以上
△ジレット、バレット、ロールス各種安全剃刀

□一般向贈答品として

△銅器
△インセンスバーナー　四、五〇　五、五〇
△花瓶＝五、五〇　六、五〇　七、〇〇　七、八〇
△薄端＝七、五〇　△同上田臺＝四、〇〇　四、七五　五、七五
△置物＝五、〇〇　五、七〇　六、五〇　一〇、〇〇　一三、〇〇
△純銀製品
△酒杯　大型＝四、〇〇　六、七五　九、〇〇
△同　小型＝二個組　四、二五　三個組　六、三五
△ウイスキーカップ＝二個組　七、七五　三個組　一一、五〇
△當國シルバーウエヤー
△ペリーセット　二、五〇　△テーセット（廿三ピース）一、五九　三、九五
△カットグラスカップ　六ケ組＝二、五〇
△同　花瓶＝一、一〇　二、〇〇　四、〇〇　一五、〇〇
△漆器類各種△チョコレートボックス△シガレット△シガー
△スモーキングセット△ロンソンライター
△ワタマン萬年筆　△時計

晩市パウエル街三九〇
新年調製　ハガキ
近藤藥店
電話シーモア三八三一

親獨リンドバーグを大統領候補に推した

米國內務長官が暴露す

獨逸とか伊太利とか云はれてゐる人リンドバーグ大佐に關して昨日ニウヨークで米國內務長官イクスは面白い事實を暴露した、曰く――「去る九月ロサンゼルスのナチ派は特にリンドバーグ大佐を米國大統領候補者に推薦した秘密べき事實があつた編にして有ナチス派の贈物（即ち賄賂）をリンデー大佐が拒絕したと云ふ事については何とも云はぬが推薦された事だけを證拠に公開して戴く、リンドバーグ大佐はヒトラーから勳章を貰はれて喜んでゐるが米國のドイツ派もまたリンドバーグを唯一の眞の力として熱心に米國大統領にまで擁立しようとしたものである」そして此の內務長官はドイツ派が米國內の軍需工場を破壞せんとして盛んにサボタージュを試みてゐることを指摘し且つ米國と日米の仲を割かんと謀してゐるのだと告げ更に驚くべき陰謀としてパナマ運河破壞を企てゝゐるに違ひないと述べた

大統領の英國援助を猛烈に攻擊開始

二千五百万の會員ありと云ふ

戰爭介入反對團體

ニウヨーク十九日――ルーズベルト大統領の大規模英援助計畫は共和黨側の對案となつてゐるが、獨逸ニウヨークに組織された親獨團體たる「戰爭介入反對委員會」委員長バーン・マーレヤールは昨日ルーズベルト案を徹底的に批判し「大統領の提案は米國の總てのものをその戰爭に贈與する事である」と猛烈に基を攻擊した、要旨次の如し

ルーズベルト大統領が提案した對英援助案は何も讓歩に對し平等並にロンソン法が撤廢されない限り如何なる米國人もなしないことを敢てなし得る權を一人のルーズベルト大統領に與へよと要求するやうなものである、英國、その聯合國、そして米國政府自身も歐洲戰爭が米國の借款を要求したとて無駄であるとの論に飽した結果、大統領は米國の金、船舶、飛行機、軍需品、そして米國人の犧牲の一人でもその儘英國に贈與するといふが如き驚くべき提案をなすに至つたのである、本委員會は米國の獨立の權能を大衆に警告して米國を戰爭の渦巻から救はんとするもので、これがためにはレヂオ、新聞、學校、集會、ポスター其他のあらゆる

日本特務艦の入港差止めか

アメリカで

サンゼルスに入港採油を行つた當國特務艦が同港回航を中止して他港に入港、マナスに於て採油してゐる事實が判らずも米國政府の當國特務艦に對するロサンゼルス港入港差止によるものと判明して注目を惹いてゐる折柄、更に當地米方面に傳ふる所によると米國政府が特務艦の入港を特に禁止したのは管にロサンゼルス港に止まらずホノルル入港も同樣禁止し、桑港入港さへも厳め申渡を受けた模樣初めて入港を許可してゐると言はれる

即ち當國艦艇の桑港入港に當つては從來形式的に米海軍當局宛入港期日を通告してゐたものが最近では米海軍當局の入港許可を必要とし場合によつては入港を差止められるといふ狀態に陥れてゐるもので最近の日米關係の動きと共に米海軍が當國特務艦の米國領入港に對して極度に警戒的措置に出てゐるものと見られてゐる

桑港――桑港ロサンゼルスに入港採油を行つた當國特務艦が同港回航を中止して他桑港に入港、マナスに於て採油してゐる事實が判らずも米國政府の當國特務艦に對するロサンゼルス港入港差止によるものと判明して注目を惹いてゐる折柄、更に當地米方面に傳ふる所によると米國政府が特務艦の入港を特に禁止したのは管にロサンゼルス港に止まらずホノルル入港も同樣禁止し、桑港入港さへも厳め申渡を受けた模樣初めて入港を許可してゐると言はれる

即ち當國艦艇の桑港入港に當つては從來形式的に米海軍當局宛入港期日を通告してゐたものが最近では米海軍當局の入港許可を必要とし場合によつては入港を差止められるといふ狀態に陥れてゐるもので最近の日米關係の動きと共に米海軍が當國特務艦の米國領入港に對して極度に警戒的措置に出てゐるものと見られてゐる

大統領牽制

大統領

ソシントン十九日――對英援助案その他ルーズベルト一派政策の內容に關し本質的な修正を行はんとするものでその構成は各州代表各一名計四十八名を以て結成すると云ふにある

日本が警告說

蘭印に對して

最後のチャンス

日本は蘭印に對して蘭印との通商問題に關する最後的警告を與へんとしてゐるものの如くである、芳澤使節一行はバタビアに向ひつゝあり多分一月に商議を再開する筈らしいが若し此の第二回の會談で日本が失敗せば日本はどう出るか先より何ら知る所もないが第三國筋は此のときこそ日本は直接行動に出るかも知れぬと取沙汰されてゐる

輸入の制限

濠洲で强化

濠洲は軍需品買つけに要する弗價保持の爲めポンド貨領域以外からの輸入に許可制を實行してゐるが今期間滿了後も輸入許可制を引續き實施し明年早々には更らに制限率を强化されやうと云ふ

日本人の試用

特に希望

「ジャマイカ」ドライ」賣出

當地ライオンス清涼飲料水製造會社で發賣中のジンジャー・エール「ジャマイカ・ドライ」はウイスキー、ブランデー、ラムなど洋酒と混用すれば美味百倍するといふので白人間で大好評

米國が金バラ撤さ

南米諸國へ

米國融資局長官ジョンズは米國政府が輸出入銀行を通じ南米ペルー中央銀行に對し米國よりの物資購入の爲め一千萬弗のクレヂットを與へる事に決定した旨昨日發表し、米國が南米諸國に與へる借款は左の如し

アルゼンチンへ一億一千萬弗
ウルガイへ七百五十萬弗
ペルーへ一千萬弗
キューバへは五千萬弗の豫定
チリーへは二千萬弗の豫定

八幡丸

横濱に入港

不當嫌疑の同胞も乘せ

横濱十九日（同盟）――郵船八幡丸は本日午前ホノルルから横濱に入港したが同船で結城前北米ポートランド領事、今里、石原兩駐英武官等の外最後の引揚船伏見丸で英國を遁れた在留邦人多數が歸國、その中にはスパイ嫌疑で英官憲に檢擧された田邊三井物產ロンドン支店長代理、槇原三菱商事ロンドン支店長等もあつた

◉健康相談　明夜八時より九時半迄日本人健康相談所（東ベンダー街四七四）にて診斷を行ふ

佛印を爆擊

タイ空軍が報復爆擊

タイ國バンコック十九日――タイ國空軍は十七日佛印機の不法爆擊報復のため數隊に分れ佛印領ビエンチアン、サバナケット、ブアンソン、サラバン、サヨムカソン（以上ラオス州）、シソフオン、ブタタボン、シセンクット（以上カンボジヤ州）の各地を爆擊した

獨逸オランダ關稅を撤廢

ベルリン十九日――ドイツ政府は占領地經濟關係調整につき方策を講じてゐるがいよ〳〵ドイツは十二月十六日からドイツとオランダ間の關稅を撤廢し兩國間の商品交易を自由にした旨

時雨女史ら文藝慰問隊

一月四日出發

東京十九日（同盟）――「銃後部隊」の御大長谷川時雨女史を初め樋口優子、國地文子、岸上美枝、舞踊家花柳壽輝さん、少年童話作家聯盟の小山勝清、宮尾しげお、海野十三、尾崎一雄諸氏らを加へ第三回文藝慰問團が古田中海軍大佐に引率され明春一月四日神戸出帆の便船で出發約一ケ月の豫定で屬門、廣東、佛印のハイフオン、海南島を訪問、南支那海に活躍する水兵さん達を慰問する事になつた

左の如く發表した

ドイツとオランダ間の關稅を撤廢し兩國の商品は無稅で交易される事になつた、右は兩國關係の同地的措置に過ぎず歐洲新秩序建設問題とは直接關係はない、更にオランダと第三國との關稅關係は從來通り繼續される筈

蘭印に對して日本が警告說

最後のチャンス

上海十九日――日本は蘭印に對して日本と蘭印との通商問題に關する最後的警告を與へんとしてゐるものの如くである、芳澤使節一行はバタビアに向ひつゝあり多分一月に商議を再開する筈らしいが若し此の第二回の會談で日本が失敗せば日本はどう出るか先より何ら知る所もないが第三國筋は此のときこそ日本は直接行動に出るかも知れぬと取沙汰されてゐる

日本人の試用

特に希望

「ジャマイカ」ドライ」賣出

當地ライオンス清涼飲料水製造會社で發賣中のジンジャー・エール「ジャマイカ・ドライ」はウイスキー、ブランデー、ラムなど洋酒と混用すれば美味百倍するといふので白人間で大好評

卅年前の今日

大陸日報より

◇明治四十三年十二月十九日

佛教々會附屬佛教少年會では會員增加につき會計として林喜作、小堀勝藏兩君を選任す

キャピラノ夫人

いつだつたか三十年前の「大陸日報」を繰つてみると、ふと北晩香坡インデアンの老酋長ジョウ・キャピラノの死が報じてあつた、而もその記事の中に、當時晩香坡にゐた明敏史佐々木千重師外二三の同胞が會葬したとある。ジョウ・キャピラノは死んだ時、恐らく七十歳以上であつたことと思ふが、去る十五日の日曜日にはそのジョウ・キャピラノの妻メリー夫人が、健つになるか判らぬ程の年を拾つて死んでしまつた。

◇

メリー・キャピラノは日曜日の午後「それ一服しようか」と

を繋ぐ平和の女王として生れたのが、去る日曜に「一服しよう」と云つた儘昇天したメリー・アグネス・キャピラノ夫人である。

◇

レイ・コホ・ロテと稱はれた平和の女王は、ニウ・ウエストミンスターで初めて建てられたキャソリック教會で、北晩香坡の若い酋長ジョウ・キャピラノと結婚式を擧げた。彼女は南部ピー・シー州のインデアンの中では最も美しく、また人氣があつた。また各地インデアンの系統に通じてゐたので、英國其他の國の貴顯なども訪問して來たものである。

◇

彼女はまたカヌーを漕ぐ事

上手で、昔はよく北晩香坡から潮流の早いファースト・ナロウを渡り晩香坡によく來たものだが、十年昔ブロックトン・ポイントで危く溺死せんとしたことがあつた。それでもよく危機を脫して、自分でまたカヌーを漕いで歸宅したのであつた。また二ケ月前には亡夫ジョウ・キャピラノの墓詣りに行き、森林の中で道に迷ひ、危く死なんとしたことがあつたそうだ。キャピラノ夫人の息子マチアス・ジョウは今北晩香坡インデアンの酋長であるが、彼女がキング・エドワード七世やクヰーン・アレキサンドラ自署入りの寫眞を所持してゐることや、曾孫、玄孫まで澤山あることは本紙既報の如くである。【山本倫也】

造船及修繕
日發デーゼルエンヂン總代理
東（ストランド街二九三

ピアノ教授
御結婚式お支度御披露用日本振袖
長襦袢 短襦袢 無機械及新式
ミシン入購助
電話シーモア五八四六六
キーファー街二三三 松岡久枝
電話（イランド二五九八エム）

ラヂオ修繕
如何なるレヂオでも丁寧に

謹賀新年
謹賀新年
謹賀新年

田中桑松氏の死去に對し謹んで哀悼の意を表す
ビーシーフアー愛友會
會員一同

理想的クリスマス御贈答品は
澁谷商店で……

クリスマスの御贈答品は何でも揃ふ
前川商店で

新荷到着◆謝恩券付大賣出し
△淺草海苔　一帖　二五
△同最上　一帖　三五
△味付海苔　一罐　五五
△棒鱈　一斤　三五
△化鰹（キング印）一箱　三五
△ウナギ（キング印）一罐　二五
△モチ粉　一袋　一五
良品廉價のグロセテリヤ
松宮食料品店
バウエル街二三五　電話マリン〇九三七

謝恩券付大賣出
守口漬　化粧樽　二、九五　二、二五
瓜漬同　二、九五　二、四五
鯛粕漬同　一、八五
罐詰組合せ　隨意調製
商品券　貰つて重寶　贈るに便利
優良品を最も安く
香村商店
バウエル街二六九　電話マリン三六五五

◉萬年筆大勉强
文化商會
バウエル街二五〇電話シー四〇八七
△新藥着
△ポレオン錠（五、〇〇）淋○感染の持効化學療法劑、△アルバジル（三、五〇）中耳炎、扁桃腺炎、ニキビ、淋○短期內服藥△鎭咳液（一、〇〇）たんせきに持効新藥△ヒコナ胃腸藥（一、〇〇）二、五〇△トモサン（一、五〇）胃腸特効劑△ドクトリ膏（二五仙、四十仙）クサ、デキモノの良藥
●ユクンポ大賣出（五九より）

晩香坡市バウエル街二六八
杉山運送店
電話ツリニチ一三〇五九

Manufacturers Life
晩香坡市アレキサンダー街三〇二　電話ツリ〇二八三
代理　信夫保險事務所
日本人唯一の保險士　信夫三郎
マニュファクチャラース生命保險

日本行各汽船切符販賣
日本郵船、シーピーアール
▲戸籍謄本、移民官手續、妻子及使用人呼寄手續
▲出生、死亡、婚姻等屆書、加奈陀政府出生屆手續
▲歸化證にて當國旅券下附及妻子呼寄手續其他一般代書
晩香坡市バウエル街二三五
中山義一事務所
電話　マリン五七三九
住宅（イ二二〇七アール
○御子樣の貯蓄心涵養のため
○御樣の結婚費用意のため
○他日事業の資金に當てるため
○來るべき老境の準備のため
○御家族の生活安定保證のため
當會社は世界卅二ケ國及日本の大都市に支店又は代理店を有します

來春二月を期し 獨機一万出動說

英本土南半と海上大爆擊豫想

大海戰も行はれん

ドイツは英國を屈せざれば歐洲天地の新秩序も完成せざるを見て、來春二月中旬以降三月中旬ころ迄の間に對英一大總攻擊戰を行はんとして居るとの情報あるは本紙既報の通りであり英國の地理的關係からみて此の總攻擊は空軍を主体とし次に海軍、最後に陸軍の順序に行はれるであらうと云ふ點も既報した通りだ――この總攻擊戰に際ドイツは第一線機一萬を出動せしめ其のうちの約八千機をもつて英本土南半（日本の北海道より稍大きい面積）を集中攻擊し殘りの約二千機を以て周圍の英艦隊攻擊を行はんとする可能性が充分にあると謂はれる、正に飛行機で全土を覆ふ程度だ、而して獨逸海軍は最近殘存艦隊を先頭に出動させて英艦隊に對抗ふかも知れないので今次戰爭最初の大海戰も演出出來ると云ふのだ

獨軍よ何時でも來い

用意成るとチャーチル演說

英首相チャーチルは本日の議會に於て獨軍が來年二月迄に對英總攻擊を試みんとして居ることが充分に想像される、天候的にみて冬は夏に次いで好適期でもあるからだ、英國は理想からいへばまだ遲く半分の期間を終つたに過ぎないが今冬中にドイツが一大猛攻を英國に加ふることあるとするも何ら恐るゝ所なし、英國は渡打ち喰ふまで防衛の態勢が出來上つてゐるから在、ヒトラーとナポレオンの立場は其に酷似して居る、ナポレオンの事に觸れたくないのだがヒトラーは大陸（尨大な勢力を振つてゐるが彼は今や今後二ケ月間内（即ち來年二月迄）に英國（翻して何等かの行動を執らねばならぬ破目に陷つて居るのだ、獨軍よ何時でも來れ、我に用意あり

來年こそは 歐洲戰決戰期

英首相仄めかす

チャーチル首相は來年二月頃迄に獨軍の大攻勢を豫想するとして演說したドイツの對英總攻勢が過ぎたと思ふものがあれば誤れる危險な觀方である、英國はこれに對して萬全の準備を整へなければならぬ、英國はドイツ軍の進攻戰に對しては先づ完全に準備が成つてゐる、來年は或る意味で英獨戰に決戰的機會を與へる年だと思つてゐる、即ち英軍はそろ〳〵ドイツに對して本格的攻擊手段をとり得る成算が立つてゐるからだ

一九四三年、一九四四年迄に戰爭が續くと云ふことは今ちよいと考へられぬがそれでも用意だけは必要なのである

ヒトラーも來春二月頃までに何か英國に對して手段をとらねばならぬハメに陷つてゐることはいろ〳〵な點からみて確定と云つてよい、現在ドイツが英國に對し大々的空襲を行つてゐないのは予のみる所では一つに惡天候云々に起因するものであつて天候さへよ

ローマは曰く 伊軍は負けて居ない

數へた捕虜三一五四六

イタリー軍が英軍のためエジプトから伊領リビア内へ撃退され多數の捕虜を出して居るのは事實だがローマのガイダ主筆は本日右に關して次のやうな事を云つてゐる

イタリーはまだ負けて居ない、退却した事だけで戰爭の勝ち負けが判るものではないからだ、目下のイタリー軍作戰はリビア内へ英軍を誘ひ込んで軍を消耗させ最後に勝つにある、叩けば英軍は最早やヘト〳〵になつてると言ふではないか

さて本日のカイロ電をみるとリビアの伊軍基地バルヂアは既に包圍され英軍は更に七十哩西方のトブルクへの攻略戰を進めて居るとある、海上からの英艦十五吋砲には伊軍も困り抜いてゐると云ふのだ

本日英軍司令部で數へた伊軍の捕虜は三萬一千五百四十六人（うち將校が一千六百廿六人）更に最前線から送り込まれつゝある伊軍捕虜は千に上るか判らぬ位だと云ふ、過去十日間の伊軍撃破數は約百機で毎日平均十機の割合だと

ギリシヤ戰

報なし

◇

でやらアルバニアのギリシヤ軍は海岸方面を餘り攻めず山岳地帶を突破してバロナ港方面を大きく包圍する作戰ではないかと思はるゝ點が多い、即ちアルバニアを中央遮斷してアルバニア南半を占領する作戰だ

英國の新オーダー 三十億弗内外

飛行機一万二千

英國は近くいよ〳〵米國へ對して約三十億弗の一大注文を發することになつたことが本日判明した、これは左の武器や船舶を含むものだとされて居る

△飛行機一萬二千機十二億弗
△船舶六十隻一億弗
△砲、銃、戰車など十七億弗

仙方カナダへもどし〳〵注文が來てゐるのは事實らしく加奈陀軍需工業は今後六ケ月以内に一年少くとも十億弗の軍需品を生産し得る事になつたと本日のオタワ電は報じてゐる

◇

英航空機製作相ビーバブルックは次の如く發表

ドイツは特に空からの對英進撃のため尨大な空軍の建設を企てつゝある、ドイツ新聞の廣告欄は毎日飛行機設計家、技術家、無電技師、石油專門家並に新工場の設計者らの求人で滿ちてゐる、空軍の猛訓練並にその他の廣汎な準備は唯一の目的、即ち英本土侵入に向けられてゐる事は聞違ひない

日本都市 耐火武裝

卅四市へ强制

東京――空襲下にもビクともしない防空諸施設の整備擴充を目ざす内務省ではとくに空襲の目標となりやすい都市の耐火武裝を先決として近く新潟はか十三都市へ新たに防空建築規則を適用することに決定、同時に木造家屋の防火改修補助金を明年度から從來の八倍、一ケ年八百萬圓に增額し既に防空建築規則を實施されて居る東京はか十九都市と合せて主要卅四都市の大部分を五ケ年計畫で强制的な防火改修に取りかゝる事となつた殊に新潟市等は浦鹽方面からのロシア機に對して充分防空準備をして置く必要があるのである

英軍の死傷は 一千足らず

かつたら相變らずやつてくる

チャーチルはエジプト及びリビア戰線に關して本日次の如く報告した

北アフリカの英軍作戰は目下最も滿足に進んでゐる、十二月十六日（月）迄の英軍の死傷は一千に足らない、此間イタリー軍を捕虜とした數は最少に見積つて三萬以上、外に英軍が鹵獲したものは大砲百門、戰車五十臺、その他軍需品は莫大な量に達して居る、目下の戰況は一に對する三、四乃至五の有利を以て勝戰を續けて居る、この方面の戰鬪には濠洲軍（濠洲騎兵も加はる）印度軍及び英國軍の聯合軍であり

街はアフリカ南端の喜望峰方面も今夏以來獨軍侵入の惧れあつた爲め非常に防備が强化されてゐる點を初めて發表した

參謀本部がマジノ線を頼り過ぎた敗戰の失敗を決して繰り返してはならないのだ、ドイツに對する用意と準備はいくら增加しても過ぎることはない、だが如何なる攻擊も恐るる所ではない

市立病院からも 英國に血を送る

晩香坡市立病院では市民から血を集め病院内のタンクに貯藏して今後でも〳〵と英國へ人間の血を送る事になつた

獨逸軍五万 入伊は無根

ローマ十九日――英米系の宣傳機關は五萬のドイツ軍が既にイタリーの海港に集結してゐると放送して居るが、イタリー政府は十八日この報道を事實無根なりとして正式に否定した

餅も日本で 切符制度

東京――正月用の餅の配給に就き東京府經濟部と警視廳では目下協議を進めて居るが、七百萬市民に一人も漏れなく公平に行き渡るやう切符制によつて配給することに決定した、その具体的方策としては業者から町會――隣組を通して各家庭へ配給される事になり目下一人當りの分量を協議中である

死んだ 矢田長之助氏

昔の領事さん

晩香坡領事として久しく當市に駐劄した矢田長之助氏は十一月廿七日午後十一時廿五分東京世田谷區深澤町四ノ一の自宅で腦溢血のため急逝した、享年七十、同氏は島根縣出身で明治四十年十一月から大正二年三月まで五ケ年半第六代目領事として晩香坡に、大正二年十一月から同五年十一月まで總領事として

邦字新聞の 發行を禁止

シンガポール――當地で發行されてゐる邦文週刊紙「南洋及び日本人」は國防法條令第十八條に反するとの理由を以て十二月四日シンガポール（倉庫）により發行禁止を命ぜられた、因に同紙は一九一六年創刊の歴史を有する邦人發行の有力紙である

平安丸入港期

郵船平安丸は來る廿三日（月）午前九時頃當港に入港の豫定、當地上陸者は一等三十八名、二等三十三名、三等卅四名、シアトル上陸者は一等九名、二等三十名、三等六十四名

求 家庭働き婦人或は娘入用 二人家庭電ハイ二九六一アル

●新電話 ランガラ・タキシー ランガラ〇七六五 マーボール 河口

電話番號變更 マリン五七三九 中山義一事務所

法律事務所 エーチ ヤング ドミニオン・バンク・建物内一〇〇九號室 電話變更マリン二八二五（日本語を話します）

夫 彖松 儀は御多忙中に拘らず遠路態々御會葬被下難有奉存候 拜趨御禮申述筆の處混雜の中御尊名可申上候 御伺ひ有之も計られず甚だ失礼の段御容赦下度 挨拶申上候 十二月十九日 妻 男 長女 二女 三女 母 父 在日本親戚代表 友人代表 ビーシーフアー愛友會 田中 みよ子 孝子 博文 小林源一郎 村木勇次郎

●家庭常備藥下熱膏一手販賣 ATCM 仲靜枝 晩市メーン街一九一 ビーシー州公認 渡邊琴子 電話シー五三三

婦 渡邊糸子 西第六街一九三（不在中はペビュ三三四七エル） 電話フニヤ〇七五七エル 吉原登代

晩市バウエル街一六三 ゴーナ街四四五 渡邊琴子 電話シー五三三

晩市バウエル街三三三 ハヤミラヂオ 電話シー四一二

晩市バウエル街二三八 運送業 電話シー 三五二八 山崎鄂太郎

越

高評あるコロンビアスチヂオ 遠山寫眞館 自宅ナキスター一八五〇エル 電話シー一七二三 晩市メーン街三二三

ニューケーキ 世界百パーセント マルタッドミルク ケーキ バナナ ケーキ 特製カスタード ケーキ 結婚式用ケーキは美味しい 六十仙 品を調製致します 晩市バウエル街三九二 仕よし

東へスタングス街六八四 公認 フリータ美粧院 資格者美代 電話ハイ五六〇六

トンネマーバ

晩市バウエル街二四三 郵船切符取扱 各種保險代理 水原事務所 電話マリーン五七二七

仲介業 不動産の賣買精々有利にお世話いたしますから何卒御引立を願ひます

シンガーミシン 日本人最古の經驗ある代理人から求めになれば即座に修繕其他の事が間にあひ皆樣の御便利御德でありますミシンの事は御電話次第速刻御相談にお伺ひ致します 電話ハイ五九七八アール フランクリン街一七六六 柳澤元仁

生徒募集（入學隨時） △夜間部も御座います アントネット洋裁學院 晩市ワーター街一〇八半 電話ツリニチ五五三〇 澤田美代子

シンガーミシン 日本人代理人 堀謙次 西第廿街三五一 電話フニヤ一三八六エル

結婚及葬式用花類 バウエル街二七〇 中村花屋 電話シー五九三五

新電話 マリン七二五一 七二五二 前川魚店

求 カフエートレス二名 至急入用 電話ペビュ一六五〇

求 經驗ある家庭働き娘コキング無し 電話ペビュ一六五〇

知らせ 今度新らしくエリルガスのポンプを据えつけ皆樣に一層のサービスすることに致しました 何卒倍舊の御引立を願ひ申上げます 晩市バウエル街二一一 セフティグラーヂ 電話マリン〇七四八

Singer Sewing Machine Co. 393 Powell St. Shop Phone Sey. 1326 新ミシン 古ミシン 取換へに並の方は求めの方は 是非當店に御用命下さい 附屬品一切も取そろへてあります 晩市バウエル街三九三 マネジヤー 鶴田收藏 自宅ハイ五七六八エル

曾我運送店 晩市バウエル街三八一 電話マリン三六一九

本社は日本人各位の御便利の爲め各種ミシンをバウエル街ショツプに取揃へて居ります 重松花屋 晩市バウエル街三一〇 夜自宅ツリニチ四七九三エル

花 花束、花輪 鉢物一切

高評あるコロンビアスチヂオ 遠山寫眞館 自宅ナキスター一八五〇エル 電話シー一七二三 晩市メーン街三二三

越 バウエル街二三八 運送業 電話シー 三五二八 山崎鄂太郎

ブリキ細工プラマー 大勉强で御用命に應じます 晩市バウエル街五八〇 宗宮ブリキ工場 電話ハイランド六一九〇 留守の節はハイ一八六〇エル

ニュー・モダーン・ステユヂオ メーン街四三八 市マーケット向側新建物 支館 バウエル街二一四 電話マリン五六三四 村上寫眞館 自宅フエ三六二七エル

舞踊教授所 若柳流師匠 外海トミ アレキサンダ街四三三 電話ハイ五二二九エル

○今回日本人タキシー業者は全部（メーター）に依つて料金を申受ける事に致しました 晩市日本人タキシ 名畑タキシー ハイ〇七六五 オーケータキシー 西第四街一六八四 電話ペビュ五九二七 高田タキシー 電話（マリーン五六五七 自宅同〇二〇三） ヤマタキシー 電話シー（〇四）四一四五

花 花輪花束一切の御用は是非當店へ 晩市西第四街二三五六 イーノー花屋 電話ペビュ七八八一

土地家屋各種ビヂネス賣買 登記公證手續 日英文契約證書作製 其他一般代理事務 晩市バウエル街三三四 公認 奥村事務所 電話シー一八三〇 住宅ハイ三〇六三アール

▽先驅者に聽く…△

ブラジルを語る

（上）

輪湖俊午郎

輪湖俊午郎氏（一）は長野縣出身、松本中學四年在學中覺身北米加州に渡り米國で外人の土地所有を非ずるや、大正二年同地を捨てゝブラジルに移住し珈琲園を經營、間もなく同地最初の邦字紙日伯新聞を刊行、後ブラジル時報の編輯長となり同七年十三年振りで歸朝して翌年夫人同伴で再渡航、サンパウロ州アリアンサで農場を經營する傍日本の同國移民事業に盡瘁した、現在三男一女をもうけて在留邦人間で重きをなしてゐる。

◆

「肥沃な土地は人をも肥らせる」ブラジルにはとんな諺がある、それはこの沃野に惠まれた南米ブラジル、この國と日本の交渉は正に移民で始まり移民に始まれた眞に有名な國交だ、最近我領事館の調査によれば在留邦人數十萬五千と推定されたが、第二世の國籍は日本、ブラジル二重の國籍に分れこれに加算されてゐないブラジル國籍第二世三萬五千と調査洩れを合算すれば先に十萬は確實と思はれるしかも創業時代によつてクオーター（四分の一）、なる混血兒年三千名の移民入國を許可する上に第二世の自然增加數は年平均一萬内外と推測されて、在留邦人六十萬突破は今後十年目位で實現される可能性を持つて居る、之等は釀造酒といふ部類で麥とか粟とか米などで釀造して濾して粕を分けたものである、ビールは四度内外、清酒は八、九度から十二三度ぐらゐ、日本酒は十三度から十五六度ぐらゐである、支那料理屋でよく飲ませる俗にいふ支那酒の紹興酒は十一度から十三度くらゐ、先日攻略した浙江省の紹興附近が本場で糯米で造つたものである。

……○……

ベーで飲ませるキユウラソーペパミントの如き赤い酒青い酒なども甘いが併しアルコール分の強い酒はアルコール砂糖とエ

八百五十二萬平方キロ、人口約四千八百萬でその密度は僅かに一平方キロ八人餘に過ぎない、この中氣候、風土ともにブラジル聯邦北伯州の總面積は他州に比べ南伯州は珈琲で生産する最も豊沃な地、我が先輩同胞も實に九割五分がこの地に集中してゐる。

そして九十二パーセントまでが農業に從事し商業三パーセント、工業二パーセント、その他三パーセントとなつてゐる、同州農務省一九三八年の調査では邦人地主數一萬四千三百十八戸に酒といふが中々多種多様で世界各國の酒となると專門家でも知らないものも少くない一般に知られて居るところでは強い酒でウヰスキー、ブランデー、サツカ、高粱酒、ヤヤンチユー、泡盛などがある、之等は何れも蒸溜酒といふ部類のもので酒とか酒精とか蒸溜して出來る、強いのは五十度六十度位いのでも三十度以上ある。

—○—

酒の話

（下）

東京　住江金之

我國の燒酎の如きも此部類で酒精で造つたり濁酒醪で造つたり、蕎麦原料としたりする、ウヰスキーは本場は英國のスコットランドである、ブランデーの本場は佛國で殊にコニヤックはコニヤック市附近に產する良質ブランデーの稱である、サツカは蔗糖產で他と違ふ點は樽木の炭で濾して無臭にしたところである。それでウヰスキー、ブランデー、泡盛、燒酎何れも各特有の體臭があるがサツカだけは體臭がない、此點アルコールに近いのである、曾て日露戰爭の折廣に酒を齎り込みに行つた連中がいろ〳〵美味しい洋酒を持つて行つたが喜ばない、最後に變用アルコールを持つて行つて歡迎されたといふが洵に當然の事である。

……○……

ビール、清酒、日本酒などは前の酒に比べるとアルコール度も劣く味も柔かであり、又多くは黃金色とか琥珀色とか銘々の色ツセンス或ひは果物の皮などでまぜ合せた酒である、朋友前待ち合所でボーイが持つて廻るベルモットも清酒とベルモット蔗糖などで造つた混ぜ酒であり、又通人が飲む各種のカクテールはいろ〳〵の酒と香料などを混ぜて造つたものである、曰くヤンハッタンカクテール曰くミカドカクテール曰く何々、數限りもない名前で今日も明日も毎日の如く新しいカクテールが新製されて居る。

（をはり）

夢のゆり籃

晩市　強子

しげる青葉のこの下で
若き母はあやしぬいとし子を
まるる頬つぶらな眼
母は笑みぬ頬づけて

伸びよ育てよ若草の如く
清らかなる喜びに
母はまもらんいとし子を
やがて歩まん子のために

吹くな嵐よ安らかなる
ゆり籃に
母は守らむ永遠に
自分の命のある限り

日本の子へ

靖子

沖は荒れちやとむ前は今日も
告げに來るのか空飛ぶかもめ
可愛い我子が船出をしたに

明日の天氣は雲行きは、
北が吹いたよ吹雪ちやないか
お前知らぬか聞かしておくれ

回數式に紙が出てくる
模式ブック

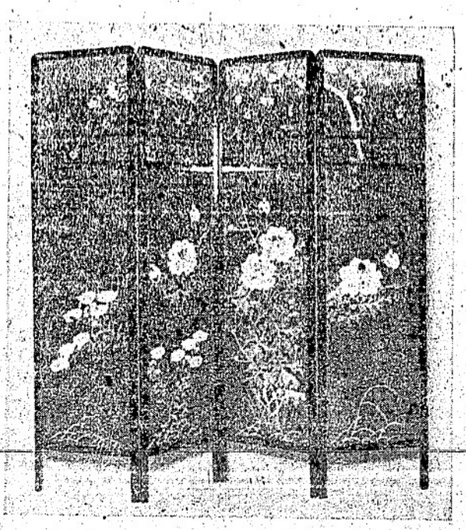
強烈煙には
シャンテクレー
シガレット紙を
紙質が軟く薄く
燃が充分付いてゐる

Chantecler
Slow Burning
CIGARETTE PAPERS

謝恩券付年末大賣出し

全面的輸入禁止により日本品とも當分お別れです
一人でも多く眞の日本を知る様に御贈物には日本品を

屏風　四枚折　絹地縫模様入　二二、五〇
同　四枚折　絹地花鳥縫模様入　一七、五〇
同　四枚折　縫模様入　一二、五〇
同　四枚折　書模様入　九、五〇



ファイヤースクリーン
絹地縫模様入　七、五〇
木綿地模様入　五、五〇
同　二、五〇

日本品排撃は表面だけ
日本絹物の肌さわり殊に美術的製品に對する白婦人の愛着は實に大いなるものがあります＝贈物には日本絹を

日本着物　絹地縫模様入り
色合　ブルー、赤、黑　其他
一二、五〇
九、九五
七、九五
五、九五

絹地縫模様入テーブルクロース　色合、サイズ各種御座います

良い品をお安く　古屋商店
パウエル街三一八＝三二四
電話シーモア二九三三

強力榮養劑　ビタミンA　二弗五十仙　四弗五十仙

○お子さん方の發育を活發にする爲
○病弱者特にかせ引き易い人々の抵抗力强化の爲
○初老以後の方々の元氣を旺盛にする爲
○產前產後の御婦人や激しい勞働する方々の最も有効適切な榮養劑

かぜには一番よくきく

昭和堂

高等風藥　一弗　五十仙

見本進呈
新年ハガキ
近藤特許賣藥店
390 Powell St. Vancouver, B. C.

ソーダスト　薪炭
電話にて御注文下されば直ぐに必屆けいたします
パウエル製材
薪炭會社
パウエル街一三五五
電話（ハイ）四五六七　四五六八
S. UCHIDA
347 Powell Street, Vancouver, B. C.

年賀狀
普通、繪入、模樣入
の女子用子供用一切
內田書籍店
電話シー四二三〇

新荷到着
◉味付海苔　一罐　九十五仙
◉別珍防寒萬人履　一足　九十五仙
◉別珍萬人履　一足　七十仙
◉銀杏　一罐　三十仙
◉栗甘露煮　一罐　三十五仙
で御買物はユニオン魚店
パウエル街四六九　電話ハイ〇三三五—〇三三六

日本行汽船發着表

船名	發	着
平安丸	一月三日	一月十七日
氷川丸	一月四日	一月十七日

◉晩市（ネーミ・ツシヨン・スクーデ（ダンマイア）間五七〇）
▲晩市發　晩時十分、後三時十五分　後六時十五分　後十時十五
▲ビクトリア行　發　前十時三十分、後十二時　着　後六時四十分、前七時
▲シアトル行　發　前十時半、後十一時　着　後六時四十分、前八時
▲ルフ島行　發　前九時（月、木）　着　木曜、後八時十晩、後六時半
▲村及ブリンス・ルパート行　發（水）後八時半　着（月）前七時半
ユニオン汽船（ハーデーベ經由）（火、金）後九時
◉ユニオン汽船　ブリタニヤ及ウクドクアイバー行　發（月）前九時、後五時半
◉アラスカ、ケツトル、ベーリ
◉シービーアル　發前十時　後七時十五分　着前八時三十分　後十時半
◉美府發、ナナイモ行列車　發　前十時二五　着　後五時
◉晩市發　晩市場　元値　印値　小賣
▲卵　ニー大　二八　三二　三六
▲モロリ　レタス　アニオン　ポテト、ナイヤー　入斤　一〇五　一〇
▲カワフクワ　三一五　二五〇　一五
◉日本行郵便物本局締切日
▲一月十七日　火
◇シホ　干潮　滿潮

振袖御殿

川口松太郎作
岩田淳太郎画

（98）

旅から旅（八）

「大夫が女房につかまった」
明日の早立ちにそなへて、臥床に入つてゐた侍者たちが色をなして駆け立つたが、どうしやうにも手の施しやうはない。
「私たちの力ではどうする事もなかつた。」
「お細を貰く、暇をはわりませぬ。そのやうな暇はださいませぬ」
ふり絞つて叫ぶ藤に、無疑や、一座の者が驚いて飛び出して来た、が、どうする事の出来なかつた。
「申し申し月表でいらせ」
「我々は貴にてまゐつて居るのぢ」
さう云ふなかりで取りつく島もなく、乗物の用意までもあつて、四人彼ひに駆れた年増が目にも止まらなかつた
追ひすがる無疑たちを引き放して、青嶺を後はす暇も與へず、宿の表に出すと、夜の暗に紛れて、廣島の城下を立ちぬけてしまふのだつた。
「大夫が盗られた」

不服の一つで、居合せた武士がすぐに南無右衛門の乗物を追ひかけた。まもなくつく城下を外れたばかりの街道に大目付配下の侍たちは、一刻も早く遠野家の領地外へ出ようとしてゐる。
「我々は遠野家の家臣でござる」
大姿守が、京より招きし南無右衛門に、何なる後度がござつたか。仔細を篤と承はりたい」
「御用に公儀お侍なればとて、嘘の御検査は然るべきでござらう」
遠野家の家臣十餘人が、乗物を取巻いてつめよつたが
「拙者様方々の御内命でござる」
「大奥よりの密命にて、御検査様より申上ぐるはすでにございまする」
毅然として侍たちは少しも怯く様子がなかつた。
歴代藩主の御霊中で最も威の高かつた二代藩主光貞公の内命—さう聞いたばかりで遠野の家臣も口出しが出来なくなつた。
「お嘘ぬの仔細は御なる儀か夫も一嘘は承はりたいと申しまする。お塞つかへなき限りにて御打ちあけ下されたい」
苛立ちを丁寧にして聞くと
「御藩御用を受けし直参の武士を、京の奥谷に斬り棄てたことがござる、そのお咎めと存じ申す」
「南無右衛門が斬りましたか」
「拙者ども、しくは存じませぬ、南無右衛門並に配下の女嘘人四名にて、公儀御直参を殺害いたしたとやら。御藩よりお

是非一度
御試用下さい！

オールド・バージニア・ファインカットの味は煙草のお気に召す事を存じます
最良のヴァージニア葉を特別細かく刻んで作られた此の煙草は優秀なシガレットを凌ぐ特別の満足を與へます
ポケット用　十仙
ポーチ　十五仙
半ポンド入　八十仙

OLD VIRGINIA
Fine Cut

謝恩券付年末大賣出し
貴様の新年用靴及御贈答用靴一切
豊富取寄御待致居りますぢうか御来店を

ベービー靴	四十仙　一弗三十仙
ガール靴	九十五仙　二弗二十五仙
ボーイ靴	一弗九十五仙　四弗九十五仙
婦人靴	一弗九十五仙　四弗九十五仙
男靴長及短	二弗四十五仙　七弗九十仙

バウエル街三五六　電話ッリ四四七七エル
名畑靴店

御電話下されば早速お届け致します
各種薪、コール並にソーダス
スターメイ新炭
電話ハイランド三〇七六
夜間ハイ五〇六六アール

大陸アンテナ
しやれ鎖
バウエルリバー
無塗棒鞭啓

甲「今度輸入禁止で日本から来る品物が大分高騰なつたといふぢやないか」
乙「松茸だ、この間商業會議所で逸早く椎茸、ありつ箱ぴを發表しとつたよ」
甲「君の家では心配はいらんぢらう」
乙「それ乗、お菓子な話ぢが夕食に一杯やるのでね、日本酒が粉くなると酔ぐに困るんだよ、して獅油君んところはどうだい」
甲「實は日本食食はねば元氣出んぢ」ちゆて大勢の牡蠣共に日本食ばかり潮庵食はしとつたんだ、ところがこうなつてもし洋食にタオル事にでもなれば花札もつて名酒ないや」
乙「お互に行酒のことを心配しとつてもあ嘘なあし」

熱涙氏へ
菊花九亜會

先日アンテナ似りで本會記念雑誌を御贈下され深厚なる御言葉有難く感謝します、右御物御入用でしたら雨方でも實費でお分け致しますが部數に限りがありますから早く柳橋、赤塚、長

瀧谷何れへなりと申込み下さい
××寄附欄××
金子サモ姉は特別寄附として五弗昭和語學校へ△藤崎カネ氏は金決祝に二弗フェアピュウ語學校母姉會へ

おいしい
ケーキ類一切
「ウェッデングケーキ」特製致します、電話次第見本持参いたします
バラードベカリー
バウエル街二〇五
電話マリン九五一七

れ正月用
鏡餅
例年の通り謹製仕り候間多少共拘らず御用命の程を御願申上候
山戸弥花あられ
林一心堂
電話ハイ三五三六エム

◇通辯一般代理業
日本行船切符取次
濱岸事務所
アレキサンダー街二〇四
電話ッリニ四三七四アル

大工一道具切具
晩市バウエル街三六八
秋山金物店
電話マリン一八五三

加奈陀日本人會
晩香坡市ゴーア街三二九
電話ッリニ〇〇七二
Canadian Japanese Ass'n
329 Gore Ave, Vancouver

晩香坡市バウエル街三八〇
昭和倶樂部
電話シーモア四五三三
（事務所用）電話フリュア五五二二

B.C. WOOD & COAL CO.
割薪値段

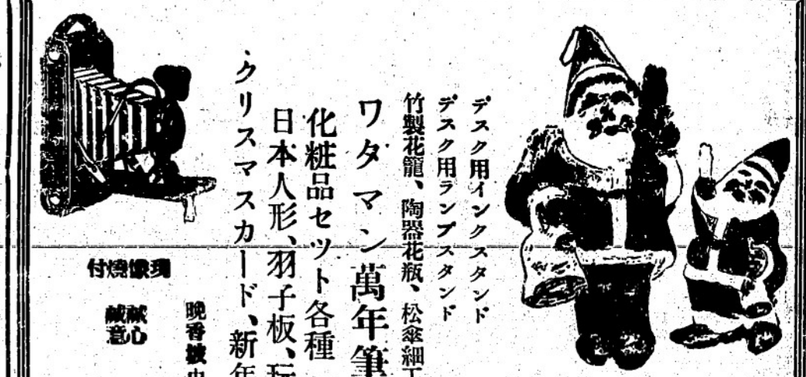
インサイド　ファー	一コード	六、五〇
	同半	三、五〇
同二等品	一コード	六、〇〇
	半コード	三、〇〇
同三等品	一コード	五、〇〇
	半コード	二、五〇
ヒーター　ブロック	一コード	五、〇〇
	半同	三、〇〇
ファー　スラブ	一コード	四、五〇
	半同	二、五〇

御電話下されば早速お届けします
ウッドランド街埠頭
エヂング　三、〇〇
エヂン新炭
電話ハイ〇九一五
夜間ハイ三七九六

東バンダー街九二
電話シーモーア二四九一
秋本重則
恭頌林鴉臣
妙醫

◇ビルダー　サプライ
各種ランバー、シングル、ドアーウインド、オールハ、セメント其他建築材料一切最も安價にて販賣いたします
尚住宅、鶏小屋、バーン等の請負を専門として居ります
電話或は郵便にて御通知下されば遠近に拘らず早速セールスマン出張の上見積値段運搬其他萬般御相談に應じます
ビーシー州ポート（ネー）ツランク・タウンライン電話（ヤード七九）
ード角　自宅　同一三五エル
同　六八
ファンリッチ製材會社
瀧本與次郎

小生儀過日右腕の骨を折り早速林醫士の診察治療を御願致せしが一週間にて全治致し林醫士の折骨打撲に對し卓越なる技術を推稱し感謝しました林病臣醫士は斬傷腫物筋痛挫骨皮膚病一切及神經痛腰節の痛等に獨特調製に依る藥は實に卓大の効力あり又打撲傷や挫骨筋違い等には長く經驗あり如何なる重傷にても速かに全癒する事は實に日本人間にも熱知の通り若し右の樣な際は早速林醫士の來訪を御願する事を御勧め致します特別に日本人を歓迎優待し親切に治療致します
スプストン　秋本重則

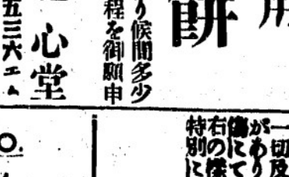

現燈燈付
誠心
誠意
誠心堂
249 Powell Street Vancouver, B.C.

大懸賞大賣出し
年末年始の御贈答品
白人向（必ず御一覧下さい）

シルバー花生	四、九五	一七、五〇
薄端	七、五〇	花臺　三、〇〇以上
香付造花（小形花差付）		一、五〇
デスク用インクスタンド	六、五〇	四、〇〇　三、五〇　二、五〇
デスク用ランプスタンド	一五、〇〇	七、五〇　四、二五　三、二五

竹製花籠、陶器花瓶、松葉細工、竹製壁掛等多數珍しい品を陳列致しました
ワタマン萬年筆（百ケ年保證付八弗五十仙）
化粧品セット各種　一、〇〇以上
日本人形、羽子板、玩具
クリスマスカード、新年ハガキ作製　至急御下命下さい
晩香坡市バウエル街二四九　電話シーモア四八八四

眼の悪い方は
眼の検査及び眼鏡の調製を専門に行つてゐる弊店の専門技師
エー・ジー・ヒルシベルグ氏
エス・エルシベルグ氏
ミルトン・ヒルシベルグ氏
に御相談下さい
西一一八（スタングス街）
トーリック・オプチカル
電話シー三六二一
TORIC OPTICAL
Opposite Woodward's Dept. Stores
118 W. Hastings St.　Sey. 3621


かまぼこ製造販賣
バウエル街三三三
前川魚肉店
電話マリン七二五一
同　七二五二
住宅ッリ四七八七アール

皮膚病専門
イボ、痣、フキ出物に特効
公認電氣治療師
長野才松
電話リチモンド一〇九〇アール

洋和雑貨食料品
東洋商業會社
P.O. Box 46,
Port Essington, B.C.
主任　大橋松次郎

眼の悪い方は
正確な検査の上眼鏡をかけると眼はハッキリものごとがハッキリと早く考へられます
特に現代式スタイルの眼鏡は恰好もよいです
一日も早く御相談願上ます
西（スタングス街六〇五）
オプチカル・ハウス
専門技師ピットマン氏ローズ氏
Pitman's Optical House
HASTINGS NEAR SEE-MORE ST.
Phone SEY. 1071

先祖傳來
名灸骨接筋違
男女諸病一切及び子供のかんの灸
▲慢性胃腸病、婦人病、つわり
並に
ビーシー公認マッサーブ
晩市プリンセス街二四一
電話（イランド）三〇四二エル
鎌倉

結婚、御祝用ケーキ
特に日本人向に調製致します
洋菓子類一切製造致します
晩市内は多少に拘らず配達致します
バウエル街三四二
パウエルベーカリー
布田鶴一
電話ッリニア五五三二
住宅西第七〇街一一九八
自宅電ランガラ〇六〇七エル

◆魚肉類
◆青物類
◆カマボコ
◆和洋食料品
バウエル街二六二
茶木魚店
電話ッリニア五五四二

●高等南京料理
コツクは新進の腕さ、で料理は貴様のお口に合ふやう
美味に調理　値段は大々的勉強
晩市バウエル街三八二
新南京樓
電話シーモア七八七五

荷物運搬は凡て確實親切勉強で好評な
晩市バウエル街四六三
運送社へ
電話ハイ一五六六

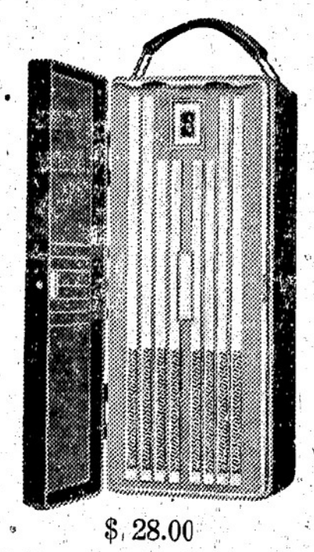
和洋雑食料品
晩香坡市バウエル街六六六
西村商店
電話ハイランド一三七五

男女子供靴一切
晩市バウエル街三三八
電話シーモア八六一九
加藤靴店
住宅　東カドバ街七九一
電話ハイ〇九二七エム

男女着類一切
晩香坡市バウエル街三七八
三七四
澁谷商店
電話マリーン七七四一

鮮魚肉類野菜類
食料品一切
バウエル街三五三番電話ッリニア五七八四
自宅電話ハイ四九七九アル
スター魚肉店

薪炭販賣
電話マリーン八七〇二
熊本

ビクター
手提ラヂオ
輕くて体裁のよい音がとても素晴しいこんなラヂオが出ました
定價　二十八弗

$28.00
バウエル街三〇一　電話ッリ〇〇五五
大正堂
ミカドツランスファー　電話スタンストン二

川出製罐會社
電話ハイランド一〇九〇
使間ハイランド六〇八四

晩市バウエル街三五九
かすが菓子店
電話シーモア二七二九

晩香坡市バウエル街三二
西畑ブリキ工場
電話ハイ〇四二六

大勉強致します
バウエル街三三二
電話シー〇八六一
武藏屋
川本孝一

電話ハイランド一六九〇

野獣の如き支那兵の暴狀！

物資に窮し墓地まであばく

工藝品を陳列

日加商業會議所

日加商業會議所では西ハスティングス街八一五マーチャント・エキスチンヂ・ビルヂング内同事務所に於て日本工藝品を陳列してゐる、年末贈答品としてふさはしい物がゐるから希望者には出來得るだけ早く申込まれたしと

龜ヶ谷校長講演

新西院同窓會

〔新西院通信〕當地語學校同窓會では來る廿二日(日)午後六時より同校に於て本年度最終の親睦會を開く、席上龜ヶ谷校長の「新日本の印象」と題する講話並に茶菓の饗應がある筈

幸運の人々

籠球聯盟のラフルテケツ

籠球聯盟で曾出してゐたラフル・テケツの抽籤が昨夜体育館に於て行はれたが、その結果當籤番號は左の通り

△一等一七六七—ケ—山本△二等二三四三—小財△三等八七九—龍神△四等二六三四—ケ—加藤△五等三〇六七—川庭△六等四八五九—ユム村尾△七等八六〇鈴木△八等一二八—エス渡邊△九等一九四三—ロングヂン△十等二八一九—伊藤（以下英文欄參照）

總會と報恩講

新西院佛教會

新西院佛教會では年中行事の一なる宗祖の報恩講を明年一月四日五日の兩日に亘り勤修する事に決定、尚定期總會は十九日執行に決つた詳細は近々發表する

花嫁様の御仕度一切

支度　日本着振袖貸貸

最新式鬘及鬘帽のオルバーマネントウエーブ

晩市メーン街三二三

スター美容院

御花嫁の御仕度一切

長襦袢、裾模及模様各種オルバーマネント

無毒毛染

クラウン生命保險會社

晩市・ーヂャス・ビル八二二

大田原一郎

新西院市第六街六十二

州公認　ビーシー　グレース美容院

英雄？馬占山

ハクがすつかり剝げ落ちて部下がドン〳〵逃亡

（東和通信）馬占山はその後流れて敵地では何處へ行方を晦ましたか、目下の所全く不明の狀態である。

○招撫を設けこれを收容してゐるが實効が期待すれば其の脱出が一層多くなるので盛師團長は馬占山の行動を厳重に監視をなし、かつその抗日の馬占山の運命はもはや旦夕に迫つたもの

皇國に捧げし命

殉職の白衣天使

（大阪通信）住吉區平野南町三九五、本籍和歌山市北新宮町の救護婦中千代さんは厚生省和歌山支部傷病者慰問班として大阪市内陸軍病院に勤務中、昭和十三年八月日赤和歌山支部派遣第〇〇救護班補充員として召集を受け、當時七歳の母君と夫君米樹氏を殘して病院勤務となり傷病勇士の慰安にはげんでゐたが、その後仮病の内命に接したとき

季節の贈物として日白人に受けのよい滿開の久留米つゝじ

盆栽＝好感＝經濟

すでに決死の覚悟で郷里を出発してゐたものが病々しい姿となられた多くの勇士を殘し中途で離別することは出來ません、血判で誓ひた決意を示し力つゝ病床を忘れて眞剣に看護に從つてゐたが不幸病魔に侵され日赤和歌山支部病院に後送され日赤和歌山支部病院に離別の涙をもつて傷病兵を看護してゐたものが病々しい姿となられた多くの勇士を殘し中途で離別することは出來ません

芋づる競爭

日本一爭ひ

栃木縣河内郡瓜連村大字瓜連字[illegible]さん自慢のお芋の新種、一昨日ナント八十三本もあり反當り入百貫といふ多收穫の新記録を出した、ホロ〳〵顔の高橋さんこの新種に名付けて「三千六百年」

角靜江孃と矢倉長壽氏婚約

取縣人矢倉長壽氏と同縣人角伊吹松氏長女靜江孃は角利屋、岡谷友太郎兩氏夫妻の媒妁で婚約成り去る十五日角氏宅で親族知友を招き婚約式を擧行した、尚來春早々吉日をゑらび結婚式を擧げる豫定

本派佛青で徴兵延期事務扱

本派佛青では例年の通り徴兵延期及び出發の手續きを取次ぐ事に立ち、このほど馬占山軍部から賞詞を授かつてわが軍に贈して來た、これを切りに其の贈もゝ〳〵なるのでわが軍では盛り賑〇

上海の『奉祝記念日』

十二月十日　在上海　山崎勉

紀元二千六百年の祝賀式、敵にして世界に比類のない光輝あるわが國体の下に迎へる十一月十日と、東亜新体制の祝賀上海では今年は上海で初めて挙行せられ次いで新公園の式場では現地陸軍代表、海軍代表、一般在留邦人ら二萬餘名の下に盛大な祝賀式が挙げられた

午前八時の祝砲を撃せて北川大使を始め大使館員、領事館員、[illegible]

をうめ埋した人垣、日本人の顔顔、顔、ドンカ〳〵なつかしい祭太鼓、ワッショイ〳〵共鳴のよい神輿、神山祭を、深川祭を、天満祭を、居留民はそれぞれ祝祭を眼に描いたに違ひない、紅毛人は「ワンダフル」だとかカメラの一斉射撃だ、支那人も印度人も大喜びだつた

◇

十一月十日は午前は奉祝大運動會、夜は小中女學校兒童生徒、青年團員、民間各團体を始め一般在留民は手に〳〵日の丸提灯をかざして新公園に集合、その數約一萬七千二百人（百年賞歌）なぎを歌つて提灯行列にうつゝなぎを歌つて提灯行列にうつゝが、蜿蜒二十數町におよび北四川路の繁華街なぎは火の海と化し萬歳のどよめきに夜は更けて行つた

◇

われ〳〵は皇紀二千六百年を祝へよう、そして又上海の日本人の發展振りをたゝへよう、虹口の街を御輿かねり歩く光景を何年か前に誰が想像したであらうか、だが、虹口サイドが次第に日本色に染められて行くのを單純に國威の伸張だと考へるのはあたらない、英米の帝國主義は曾てさうであつた、上海そのものが英米文化の、それも植民地化した都市のサンプルではないか、日本の勢力の伸張と浸潤はもつと本質的でなければならないであらう、それは日支融和への方向である

新体制お正月と警視廳の親心！

松の内は晝酒もよし

（東京通信）歳末とお正月の取締では？警視廳保安部では目下關係各係と新体制下にふさはしい年末年始の取締方針をねつてはゐるが實施伏食店、料理屋、特殊伏食店の營業時間は廿九日から新春三日まで一時間延長、世一日の大晦日は終夜營業、また待合、遊廓は松の内間の一日から五日まで一時間延長をそれぞれ認める模様で、上戸黨待望の晝酒も松の内の二日から七日まで大目にみようといふくだけ方だが、元旦は興亞奉公日にも當るのでこの日だけはお屠蘇で……といふ意向、また江戸ッ子

年末年始のお買物

どうぞ邦人商店し

好みの朝風呂も元日、二日だけはチョッピリ許されるらしくこの外時局利用の財物募集や電力利用の裝飾、誇大廣告、景品付大賣出し等は一切禁止されることになる模様である

新年の回禮を廢し學校で拜賀式

新西院語學校維持會

〔新西院通信〕當地日本語學校維持會では去る六日本年最終の役員會を開催し種々節柄を考慮する問題が討議されたが、今や祖國は申すに及ばず當カナダも戰時体制下にあり、在留日本人も真心よりカナダの國策に順應して近日來益〻戰時强化の一途をたどりつゝある點を自覺し自粛自重して冗費を省き、戰時公債の購入等に積極的に努力し來るべき正月は從來の弊風打破の目的より新年の回禮は、語學校ホールに一同會して新年祝賀式と共に行ふ事に決定してゐる尚同祝賀式は午前十時に始める

ので改めて通知せざるも當地在留者一同の參加を希望してゐる

因に本會第廿四回定期總會は一月十二日第二日曜日開催に決定した尚龜ヶ谷夫人より歸加記念として小學作法、公民作法百五十冊を維持會に寄贈本會では厚く感謝の意を表してゐる

◎——八面雜俎——◎

○最近米國は北カロライナ州の或町で黑人夫婦の間に双生兒が生れたが、その片つ方が白ん坊で世間の話題となつてゐる。博士方は白人の種でなく白子だらうと云つてゐる。

家政技藝專門學校

松崎ッモ

本校は皆樣が總ての細目に亘り充分習得して頂きたき爲め左の通り規則を變更致しました

◉本　科（八ケ月）

○下着類○婦人子供ドレス類一切（イヴニング式服をも含む）○スモキング、フアゴティン、ケープ類○婦人パジヤマ、男子パジヤマ、スラツキス等○婦人子供オーバコート及バスローブ（レギンス及各種ポケット作り方）○婦人ドレススーツ及テーラスーツ○男子オーバシヤツ、カラシヤツ、スポーツシヤツ○男兒長短パンス及男子パンス（テーラ）

……其の他手藝は自由……

◉高等科（一ケ年）

○本科細目全部　○女子乘馬服　○男兒スーツ、オーバコート（テーラ）○男子タップコート及バスローブ　○男子スーツ及オーバコート（テーラ）其の他

（以上兩科共公認印のある證書授與）

◉自由科（短日月研究される方の爲に）

本科及高等科は規定の授業料納附後は習得出來るまで通學していただきます

（イ）公認校として最も古い歴史を持つて居ります

（ロ）正確なる裁斷法（ツライアンの必要殆んどありません）（ハ）教室廣く明るくミシンは殆んど一人一臺專用ですから實物教授が出來ます（實物教授に勝るものはありません）

▲地方よりの方には寄宿舍があります

▲始業は來る一月六日より（詳細は同校へ）

THE ACADEMY OF DOMESTIC ARTS
1603 Franklin Street, Vancouver, B. C.

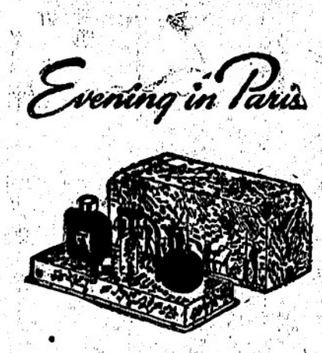
今年のクリスマスとお正月はユ・デ・エルのウイスキーとジンで祝ひませう

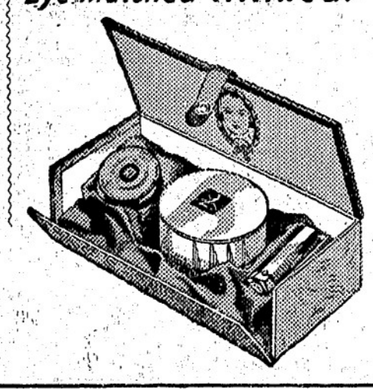
This Year,
For Better Christmas and New Year's Cheer
Get U.D.L.'s

RYE WHISKY:
1 pint Bottle $1.25
1 quart Bottle $2.30
SILVER FIZZ GIN:
1 pint Bottle $1.15
1 quart Bottle $2.25

This advertisement is not published or displayed by the Liquor Control Board or by the Government of B.C.

謝恩券進呈
クリスマス　年末年始　大特賣
—大人から小さいお子さんまで各種贈答品—
○イブニング
インパリス化粧品
○タンヂー化粧品

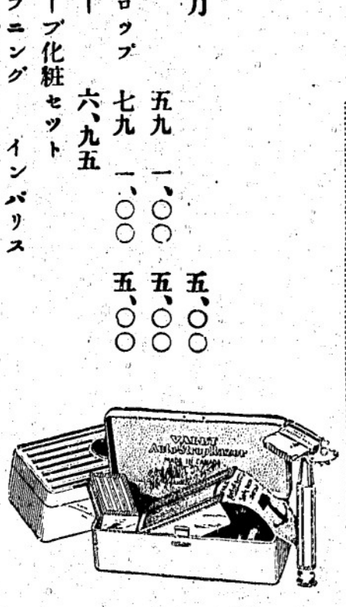




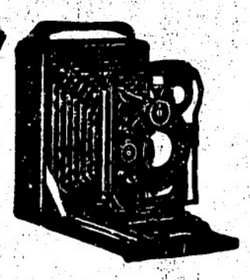
スリーフラワー、マーラス、ゼミー、デュベリースセット　一、〇〇　一、三〇　一、五〇
一、七五　一、九五
クリーム、白粉、香水、コンパクト
化粧水（五〇　一、〇〇　三〇、〇〇）
タブレット封筒美麗箱入　三五—三、〇〇
首飾り　一、五〇—二、七五
ドレッサセット（鏡、櫛、ブラシ）二、五〇—五、九五
飾花　二五……五〇　チョコレート五〇—三、〇〇
手提カバン　一、九五—五、七五
額ブチ　三五　八五　三、〇〇
ヘヤーネット各種、マニキュアセット

御婦人向選定品

事業家、學生の贈物に
セエフアー萬年筆
使ふ程よく書ける、それで最も丈夫なペン！
セエーフアーペンはスマートな高級品です！
三、五〇　四、〇〇　五、〇〇　六、〇〇
八、七五　一〇、〇〇　一二、五〇
ペン・ペンシルセット　五、五〇　六、五〇　九、〇〇
一〇、〇〇　一二、二五　一四、〇〇　一七、五〇
特製品　三五、〇〇　子供用セット　二、五〇　三、五〇
御家庭向の贈物
新譜　日本レコード各種



電氣安全剃刀
ヂレット　五九
オートストロップ　七九
ロールレザー　六、九五
アフターセーブ化粧セット　一、〇〇
イブニング　五、〇〇
エド・ピノー　五、〇〇
男子向き撰定品——シガレット・ライター、錢入れ、旅行用時計
煙草セット各種、パイプ、スパークレットサイホン、ヘヤーブラシ各種
各種おもちや——人形——テーブルピアノ、



現像　付　晩市バウエル街三三一
燒　伸
引
新見商會
電話ツリニチ三一一二

TAIRIKU NIPPO

Vol. 35 No. 10,220 THURSDAY, DEC. 19, 1940 Vancouver, B. C.

Washington Star Welcomes Envoy

WASHINGTON — The Washington Star interpreted the appointment of Admiral Kichisaburo Nomura as Japanese ambassador to the United States as a definite gesture of conciliation.

The Star reviewed Nomura's negotiations with the United States including the period of his visit to the White House during the arms conference and said:

"It is partly in the utilization of these contacts that Foreign Minister Yosuke Matsuoka hopes to improve relations with the United States—relations which became more strained than ever when Japan joined the axis and which may be even more strained if, as seems to be indicated, Japan launches a new expansion drive in southeastern Asia."

The Star said it believed that Nomura was not a friend of the axis because of his moderate foreign policy. "Perhaps Nomura's solicitude for friendly relations of his country with the United States will enable him to impress on his government the seriousness of American intentions with respect to the preservation of the status quo in the Far East," the Star said. "That is his task and mission; if he fails, his mission will have been futile."

Basketball Turkey Draw Held Last Night Listed

Results of Japanese Basketball Turkey Draw were:

1. K. Yamamoto, Box 149, Steveston, 1767.
2. Yoshi Kozai, 1024 West 6th, 2343.
3. I. Rayfin, 1300 West 13th, 4679.
4. Clara Kato, Box 524, Cumberland, 2034.
5. M. Kawasoe, 1922 Blanshard, Victoria, 3000.
6. Mary Muraro, 1425 Haro, 4859.
7. H. Suzuki, 377 Powell, 860.
8. S. Watanabe, 857 East Cordova, 128.
9. Gus Junggren, Hammond, 1943.
10. Mrs. J. Ito, 2052 Triumph, 2819.
11. M. Ishikawa, 35 West 5th.
12. Y. Matsu, 927 Georgia, 971.
13. S. Clarke, 2825 Hastings, 4631.

Chocolate Boxes: Louis Suzuki, 2456 Granville, 288; Miki, 456 Cordova, 2423; S. Kato, Celtic Cannery, 3820; Sophie Paul, 820 Broadway, 2542; S. Minaminave, 7225 Blenheim, 4712; E. C. Banno, 1366; Doug Funamoto, 608 Powell; Emi Ikeda, 552 Union, 5037; T. Imada, Woodfibre, 3962; N. Uyeda, 658 Alexander, 1058; K. Omoto, 409 Alexander; R. MacWilliam, 3176 West 31st.

Extra Prizes: G. Broomfield, 3209; M. Okano, 3443 Whittier Avenue, Victoria; Y. Mukai, 205 Gore; H. H. Nagai, Hammond; Hatsui Arinobu, Box 73.

Prizes for Seniors: Bill Takeda (Ronson lighter); Intermediates: Takada (key guards); Girls: Flo Ikeda ($2 gift certificate); Consolation: Haro Asano (Ronson).

Miss Shizue Sumi Troth to Mr. Nagahisa Yagura Told

Mr. and Mrs. Isematsu Sumi announced the betrothal of their eldest daughter, Shizue, to Mr. Nagahisa Yagura following an engagement ceremony which took place at their home, Sunday. The wedding will be solemnized early next spring.

The go-betweens for the match are Mr. and Mrs. Toshiaki Sumi and Mr. and Mrs. Tomotaro Omotani.

DEADLINE FOR MAILING

The public is reminded that Christmas cards for local delivery should be mailed not later than Saturday, December 21, to ensure delivery by Christmas Day.

QUEEN GOES SHOPPING — It's nearing Christmas in London too, so Queen Elizabeth, as you and I, has shopping to do. She's seen stepping from an armored car which recently took her on a tour of the better shops still surviving in London. The car is a precaution against surprise air raids. —Dominion News Bureau.

Royal City Do-So-Kai Plans Closing Social Sun.

By a Correspondent

NEW WESTMINSTER—Do-So-Kai's bang - out social, climaxing another successful year of Royal City's Japanese School Graduates' Club, will be held at Japanese School Hall, this coming Sunday, December 22, from 6 p.m. sharp.

Plans, out - topping those of last year's, are rapidly being realized for this gigantic spree. Principal Kamegaya, recently returned from a visit in Japan, will assist by giving a talk on his inspiration of Modern Japan. Topping it will be rousing games, and refreshments galore to tempt any fickle appetite, and of course, the future Jenny Linds need no mention.

Season of greetigs and best wishes descends upon us, so remember—let's wind up 1940 with merriment. Let's celebrate with jest and youthful jollity.

A nominal charge of 25 cents will be taken up to cover expenses.

Remember! A date with you on the eve of December 22, sharply at six!

Donation: The club wishes to acknowledge with thanks two dollars from Mr. Kazumi Shintani, on his recovery form appendicitis.

Speedy Recovery: The club sends sympathy and speedy recovery to Mr. Hisao Kikuchi who is at present confined in Royal Columbian Hospital.

Rissho Seinens Hold Final Meeting Sunday

The Rissho Young People will hold their final meeting of the year this coming Sunday, December 22, from 2 p.m. in the Nichirenshu Temple.

One of the items on the business agenda is the discussion on the preparation for the holding of their annual meeting early next year.

After the meeting, tea will be served in honor of Tatsuo Hori, who is going to Japan shortly. A fee of 15 cents will be asked to defray the cost of refreshments.

Group Protects Foreign Born

NEW YORK—Sherwood Anderson, Rev. Dr. Arlo Ayres Brown, Dr. Henry Sloane Coffin, Rt. Rev. John Montgomery Cooper, Dr. Frank Porter Graham, Ernest Hemingway, Bishop Francis J. McConnell, Dr. Henry N. MacCracken, Rt. Rev. Edward L. Parsons, Edwin S. Smith, Dr. Mary E. Woolley, and 139 other prominent leaders in all walks of American life have joined in serving sponsors for the Fifth National Conference of the American Committee for Protection of Foreign Born, it was announced this week.

In the Conference Call, the 150 sponsors state, in part: "The existence of widespread discrimination against the foreign born contradicts the spirit of America—a country made possible by the labor immigrants, made great and powerful by the unstinting devotion of people from all lands and of all races.

"Our strength and our vitality as a democracy has come from the fusion of many cultures, many tongues, many creeds. This was the foundation upon which our forefathers built. This is our heritage. It must be our guide in these difficult days—if we are to maintain our democratic institutions."

Miss Shizuko Tahara Engaged to Mr. S. Kuraoka

RUSKIN—Mr. and Mrs. Rinzo Tahara of Ruskin, announced the engagement of their second daughter, Shizuko, to Mr. Sam Kuraoka recently. The baishakunins are Mr. and Mrs. H. Tomomitsu.

Barber Shops Tuesday

Barber shops will remain open on Tuesday, December 24, until 8 p.m., it was disclosed yesterday.

Yama Appointed Can. Airline Agent

The appointment of Yama Taxi as the Japanese agency for the Trans-Canada Air Lines, is announced by Mr. Shintaro Yamashita, proprietor.

Henceforth, tickets by air from Vancouver to points east across the continent and to points south, Victoria and northern points may be secured by contacting the Yama Taxi.

Travellers Abroad Must Get Permits

New Gov't Decision Also Affects Japanese

Dispatches from Ottawa Tuesday told of the government's decision to strengthen restrictions on non-essential use of foreign exchange for travel abroad from January 1, 1941.

Canadians who wish to travel in a non - sterling country must secure a permit from the Foreign Exchange Control Board even though they intend taking no money with them.

This new measure is also believed to apply to Japanese residents in this country who wish to take a trip to Japan, and it is reported the local Canadian Japanese Association is at present contacting the federal authorities for information in this regard.

According to the Canadian Press, these permits will be issued for legitimate purposes, but the board's order is prompted by "evidence that a number of residents were taking advantage of previous regulations by crossing the border with no money in their pockets but arranging by illegal means to have money placed at their disposal in the United States.

Cleaners Work Late Beginning Tomorrow

In order to provide for the extra busy period just before Christmas, cleaning and pressing establishments and dressmaking stores are allowed overtime for the next three days, it was announced yesterday by the Japanese Cleaners and Pressers' Union.

Those who are engaged in the above businesses may keep their stores open beyond the regular closing time tomorrow, Saturday and next Monday based on special regulations under the Hours of Work Act. Permits for overtime may be secured at the Trade-Schools Regulation Branch located in the Hall Building, 789 West Pender Street.

NISEI TALENT REVUE

Artists Respond Generously

Nisei artists both local and as far distant as Haney are responding generously and have consented to appear in J.C.C.L.'s Nisei Talent Revue and Amateur Contest to be held at Japanese Hall January 18 Cecil Okawara, program chairman, announced yesterday. The purpose of the Revue is to raise funds for a Convalescent's Home for tuberculosis patients.

Plans are to have the concert presented twice, with complete change of program the second day. Tickets will be distributed at executive meeting soon.

Amateur singers entered so far number 15. Prospective contestants are asked to send in entry forms as soon as possible as Okawara desires to go ahead with arrangements of program.

The stage setting and lighting system for this concert will be very elaborate and improvement over last year's concert will be noticeable especially in the lighting system.

In releasing the following list of artists, Okawara said he is continuing negotiations for many more entertainers. Appearing in the Talent Revue will be:

Ruby Miyake, toe dance and odori; Sachiko Hamagaki A.T.C.M. piano solo; Roy Kumano and his famous Harmonica Band; Dick Nishino and Nisei Brass Band of Twenty pieces; Fumi Ohori; Tai Kuzuhara, saxophone and clarinet; Gene Kuzuhara, tap dance; Katsushi Kumagai, tenor; Lily Ide, piano and popular song; Amy Oki, toe and ballet dance; Fujie Teraishita, Japanese popular song; Hisako Shishido, Japanese popular song.

Martha Hori, Hawaiian guitar; Etsuko Nimi, piano; Adam Moriyama, cowboy song and guitar; Iwakazu Sakai, Japanese popular song (Steveston); Miyoko Sogawa, piano (Steveston); Kaye Homma, Japanese popular song (West Vancouver); Tautomu Hakkaku, piano; Shirley Handa piano and accordion; Akiko Hori and Asako Ikeda, tap dance interpretation with Yuriko Ikeda accompanying at piano; Hat Kawamoto and Stoney Odamura, accordion duet (Haney); Joanne Maikawa, tap dance in miniature; Sam Yamada and his trumpet.

Odori Groups: Sumiko Sasaki, instructress of solo odori; Kitsilano Girls' Troupe (six girls) by Hisaye Omoto; Kurenai Buyodan (six girls) by Kanaye Sakamoto.

A few comedy skits from Haney and also from Steveston are expected.

New York Vagaries

One of the New York columnists told this story the other day:

A plane, being tested at a flying field near New York crashed. In the midst of the excitement, a Japanese came on the field and calmly set up photographic equipment and proceeded to snap pictures from many angles of the wrecked plane. One of the spectators, watching the Japanese at work, sensed dastardly activity, drew the attention of a police official to the fact. The official shooed away the complainant, adding the information that the Japanese was the official photographer of the aircraft manufacturing company. — Larry Tajiri's Vagaries.

BUSSEI XMAS SOCIAL

RushRoyalCityPreparations

By a Correspondent

NEW WESTMINSTER — The armed merchant cruiser, "S. S. Y.M.B.A. and Y.W.B.A.," scarred by more than a dozen hits by its 12 months of activities, is making its last desperate attempt to sink her adversary "The Raider 1940" by using a specially designed and constructed shell called "Christmas Social."

Already, part of her members are busily engaged in making hasty repairs while Captain Hori, although mortally wounded from shrapnel of "Bussei activities," refusing to leave his post, is again issuing commands for the decks to be cleared and guns to be manned ready for action at a moments notice.

The materials for this so-called shell are being rapidly assembled by the officers who are putting forth their last remaining ounce of energy so that this encounter will be long remembered by its pursuer "1940."

To doubly ensure the functioning of this gigantic social diplomatic Yukiko Fujiwara and Nagata have already enticed the local Taikus, Y.P.S., Shiseikai and Do-So-Kai to give their fullest co-operation by promises of entertaining program to be presented when the machine of social is set in motion.

In this hour of need, "The Council" of local Bussei, unanimously elected Toby Shinohara to be the "M.C." when the secretly planned social gets under way at the Temple on December 29 from 6.30 p.m.

According to the latest bulletin issued, all local nisei organizations have responded so whole-heartedly that the chairman of the committee promises this to be the event climaxing the "Bukkyo Danjo Seinens" activities for the year.

Closing Times Extended

Stores Do Thriving Business

Although the fog tended to retard the rush of Christmas shoppers to a certain extent over the weekend the community stores on the whole are doing thriving business and there is a faint sign that a new year-end sales record may be established, it is reported.

Japanese residents in the Fraser Valley and other districts who have been putting off shopping excursions to the city fearing traffic accidents in the fog are expected to stage a grand exodus into the local Japanese shopping district now until Christmas.

Special holiday closing times of the community stores have been decided by the Japanese Merchants' Association at its executive meeting this week. According to the time-table, the stores will close as usual at 5.30 p.m. today and tomorrow, but on Saturday and the two subsequent shopping days next week, they will be kept open until 9 p.m. After the Christmas and Boxing Day holidays, the merchants will return to their normal time and will close their stores at 5.30 o'clock.

Contribution to Canada

Knight Inlet Aids War Effort

KNIGHT INLET—That the Japanese residents in this country are fully behind Canada in her war effort is being revealed repeatedly in spontaneous contributions, both individually and collectively, to the national exchequer, Ottawa.

This week another similar manifestation of loyalty was made when the members of the Knight Inlet Japanese Fishermen's Association donated a sum of $55.00 through their cannery manager to the Department of National Defence.

Their action was in conformity with one of the motions passed at the association's annual meeting held recently.

Mr. Kinsaburo Chiba is the newly-elected president of the Association.

U.S. Nisei Try 'Know Us' Campaign

(The Tacoma Times recently published an article by Tadako Tamura, well-known writer member of Puyallup Valley JACL.)

Highly reminiscent of yesterday's flaming anti-Japanese agitations is the following paragraph taken from Dr. Albert W. Palmer's new book covering a sympathetic discourse on the "Orientals in American Life." The paragraph quoted was written in reference to the fantastic reasonings of a prejudiced public regarding the comparatively high birthrate of Japanese immigrants.

"Here was an Oriental invasion from within which might overwhelm the white supremacy of the Pacific Coast, for these American - born Japanese children were citizens by birthright, regardless of the fact that their parents could not be naturalized. Some extremists even saw in this a subtle plot of the Japanese Government to colonize the Pacific Coast."

Shades of prejudiced suspicion! We American-born Japanese had been branded "fifth columnists" long before we even saw the light of day in this America, our native land of freedom and tolerance! Perhaps they, the "anti-this'n-that" element could not know that our heritage in this land, which had proved so foreign and hostile to our parent generation, was to be that cherished "American Ideal" loftily beyond the reach of petty prejudice.

But such was the situation peculiar to that by-gone era (we hope) of immigrant days when public opinion was all but swept away by the flaming hysteria of jingoistic elements who made it their business to peer suspiciously into the faces of all newcomers.

Time marched on: Our parent generation plodded on, braving the antagonisms of the community-at-large. They strove diligently to disprove the mountains of accusations flung at them....

Time marched on: The second generation children came. Compelled by changing circumstances, the Japanese broke away from their heretofore almost completely gregarious habits. They weren't the bewildered, wide-eyed immigrants anymore....they found themselves responsible heads of growing families. The children had to be educated the "American way" and thusly the stoical mask of the Japanese immigrants was removed—revealing their true personality. And through personal contact with the American public, the walls of suspicion gradually fell away to the communities which had come to know the Japanese people....

Time marched on: The niseis (a term applied to us, the American-born sons and daughters of the Japanese immigrants—meaning "second generation" in the Japanese language) were growing up, distinguishing themselves at school—scholastically and in the athletic field. And in the classrooms, the youthful niseis learned of the "American Ideal."

Time marched on: War clouds hovered over the Far-Eastern horizon and finally broke. American - Japanese relationship became strained and prejudice and suspicion again moved threateningly over the youthful nisei world—leaving us bewildered and desperately clinging to the "American Ideal" gleaned in the classrooms. But the greater part of the American public seemed to forget that Time had indeed marched on—that the present era was far-removed from the days when the "no speakee English" immigrants presented suspicious characters in the community. National magazines such as Liberty re-spanned the years and retrieved from musty files the anti-Japanese-in-America material of immigrant days and tacked it onto the American niseis and the now-aging remnant of the original immigrant stock....

But still Time marched on in spite of the seemingly retrogressive circumstances besetting the nisei—a situation resulting from the present international flareups.

We, the niseis have come into our own and the present era marks a significant change for the better (we hope). We have indeed attained majority and with it have come the realization that we have got to "make ourselves known" locally as well as nationally.

The national organization of the Japanese American Citizen' League came into being eleven years ago with the slogan: "Building Toward Responsible Citizenship." Local chapters have sprung up wherever any sizeable concentration of nisei population occurred until today there are fifty chapters covering the Pacific Coastal and Intermountain regions. The National JACL Convention at Portland, held in the fall of this year, received national attention—coupled by very favorable comments.

In the fall of last year, that touching article on the niseis entitled "Be-

See U.S. NISEI On Back Page

ONCE AGAIN

NIPPON MIKANS

ARE HERE

But this year it won't be for long, so why not BUY A BUNDLE of them, and enjoy them..... TODAY!

More than ever — They're

- *JUICY*
- *SWEET and*
- *RICH in VITAMINS*

By the way—

They Make Nice Christmas Presents Too.

GIVE

KAYSER

LINGERIE...

Vest & Knicker Set

Vest & Pantie Set

Rayon set	$1.18
15% Wool	1.18
50% Wool	2.00
Slips	1.50 1.95
Angel-Skin Satin & Taffeta Slips	1.95
Pajamas	2.50
Night Gown	1.95
Bed Jacket	1.50

GLOVES...

Plain and novelty styles in 4 and 6 button length in Kaysuede and Kidskin. Black, Navy, Harvest wine, Town green, and plum.

pair ... $1.00 *to* 1.50

HOSIERY...

Her Christmas wouldn't be complete without a gift of Kayser's lovely hose .... why not surprise her with several pairs in different shades in neat gift boxes? Now featuring the new exciting shade "WINGS".

pair ... 79 *to* 1.00

T. Maikawa Stores

LIMITED

369 Powell St. Vancouver, B. C.

The OLD LADY

By T. M. K.

"T. M. K." is the pen-name of a well-known Nisei matron, very active in young people's affairs. Her short story, "The Old Lady" won second prize in the recent J.C.C.L. contest. Dr. Norman F. Black, adjudicator, commented that the author possessed great insight in her character portrayal.

Authors Note: The characters in this short story have been fictionized and do not refer to any living person or persons. Incidents are also fictionized and no offence is meant to any peoples or country.

There she lay, still, hawk-nosed and grim. Even Death could not soften the lines that life had drawn down the side of her mouth, yet, you saw the classic features finely molded, at best revealed in something like beauty. In life....in the latter part when her family knew her....they had seemed sharp, harshly predatory, on occasion smoothing out to bland hypocrisy. Now, there she lay, her eighty years laid to final rest.

She was, once upon a time, a little child beloved of mother and father, in a small village in southern Japan. The only child of her father's second wife, who had died when she was still a baby, she was merely tolerated for her father's sake by her older half-brothers and sisters. He died, however, when she was in her teens, and in him she lost her last protector. After his death her troubles began. Father Kinzaemon had neglected to register his second marriage, thus leaving Yae illegitimate. The numerous step-brethren took advantage of their joint father's remiss, and literally threw Yae out of home and inheritance. At first she cried in helpless anger and despair, but at length she dried her tears, knowing them to be useless, and shook her minute fists at them, resolving:

"I'll show them!"

Some sympathetic villager helped her to migrate to a distant town, where she boarded with kindly folks while she helped around the house. Her reputed beauty soon got her many offers of marriage. However, Yae being a strong-minded sort, did not accept the first one that came along. At length, though, a pale young man came, attracted by the sparkle of her wicked black eyes and by her enchanting, exciting modernity. He was a merchant with a bent for pharmacy. He loved concocting strange-smelling herbal salves and doses. Of worldly goods he had a comforting amount but, best of all, he had no close relatives; that is, he had no mother or father to create an in-law problem. True, he had several brothers, but she was sure she could manage them as just so many more fatuous males. Anyway the candidate was charming in his address, so Yae accepted him through his go-betweens, smiling at his stammered formalities when he was presented to her.

Thereafter he hadn't much time to stammer or loiter among his beloved herbs. She drove him, and herself, to increase their small wealth. She worked as hard as any man, selling and bartering the goods over the counter of their tiny, untidy shop. Every other year or so she took time out to have a baby, first a girl.... worse luck!....then a boy, then two more girls....drat them! Then this energetic woman sent these babies to their many uncles and aunts-in-law to be brought up with their cousins, while she worked. Horrors! The village Grundys wagged their tongues in vain. Yae merely sniffed at them her scorn, and slaved harder than ever. So did the poor husband.

One day he gave up trying to follow this magnificent wife. He died.

After this Yae grew sharper in features and tongue. She brought back her only son to her side, but soon found she could not cope with his high spirits on top of the doubtful business of the shop. The times became harder for this widow to eke out a living from her fellow-townsmen, and finally she had to send back the boy to his uncle, and sold the shop. There was a rice-field for sale which bought at a good price, and forthwith worked it mostly by herself, and grudgingly hired the necessary labor at harvest time. The years were lean, but they slipped past.

Then there filtered into this inland town tales of a land, far, far away across some unbelievable ocean, a land where the gold grew on the pavements for anyone to pick up as easily as....that! Yae half-believed, heard some more and suddenly made a decision. It was a momentous decision as the neighbors will tell you. Imagine a woman, a lone widow at that, galloping off to some heathen country on the chance that she might scoop up a share of that fabulous gold! What was the world coming to? However, nothing loth, they hauled out the equivalent to the town's brass band and gave them a splendid send-off, Yae and her son. She left the management of the rice-field to her favorite brother-in-law, and turned her face and her heart toward the new land.

"Son," she said later at the boat's railing as they sailed out of Yokohama, "we do not return without the gold!"

* * *

What a strange land! No rice paddies, no cosy thatched houses! Everything so huge and bare, so cold! What a gigantic country this was, and this noisy, blaring city, swaggering to meet the foreigner. What mountains and trees! Yae could scarcely believe her eyes.

She forgot her homesickness in the wonder of these goldfields. Her son was apathetic, being merely sleepy and tired from the unaccustomed journey.

After getting in touch with the proper people who would help her to get used to this new land, she straightway boarded her son at the Jesuit college, because there the discipline was exemplary. To her, modernist that she was, there was no difference between the creeds of Catholic, Methodist or Buddhist. To tell you the truth, it was only in her later years that her soul's peace bothered her at all.

Her first job was as a houseworker paid by the day. Then she graduated to sleeping at her employers, when her new friends told her that it was the quickest way of learning the strange customs of this stranger country. The food was tasteless. How she sometimes longed for the delicacies of her native land! Thick soup of tasty bean-curd, the small mounds of gleaming white rice cooked to just the right degree of flakiness instead of the mush they called rice-pudding. Oh for those tooth-aching sweetmeats that were as tasty as they were lovely to look at, cut in the shapes of flowers, of birds, and the fish, Tai; colored as delicately as the leaves of spring, as gorgeously as the autumn foliage! On her days off, she hastened to the homes of her new friends who did not have to slave in another woman's house, where she gorged herself with her native food....what she could get, anyway....and wondered at the nauseating taste of the western peoples.

As for the job itself....m-m-m-m, the less said the better. To say the least, it was highly distasteful. Oh well, time enough to think of taste later. First a little cash, then the mastery of the language, after which she would look around to see what she could see. Perhaps, perhaps....

Her mistress marvelled at the tireless energy of this tiny Japanese, who looked more like a doll than a grown person, with her snapping black eyes, always so ingratiatingly polite, and wondrous willing to learn; her aloof dignity at times surprised and nonplussed this blue-eyed household. How odd, the Japanese!

* * *

Social life among the Japanese immigrants was of a necessity very meager. The men drank quantities of imported sake (this was the days before strait-laced prohibition), retold hardships, and mulled over and laughed over doubtful stories as is the custom of males in every country. Wealth was still in the making, so that the recognized amenities were of the barest sort. One there was, though, among the immigrant men, who had early made his mark in this rough country, and who was looked up to by his fellow - countrymen as the successful sample of the pioneer, someone to envy and to emulate. He had few intimates who dared to call him by his given name. Others not so intimate called him Sekine-sensei, a term of respect reserved for one's superiors. Among his Canadian contemporaries he was called 'that enterprising Sekine,' a good chap, especially in his cups.

Inevitable then, that this newest immigrant should be introduced to him, especially as they were from the same prefecture in the old land. When Yae was first brought to him....and she came in great curiosity....his indifferent glance infuriated her; all the more so because her own eyes had slid over him in veiled approval. He was good-looking in a way, of a physical hardness that appealed to her strongly. She elicited more information about him from her recent and willing acquaintance, Mrs. Abe, who kept a small dressmaking establishment on Powell Street. The boardwalk before her shop was often trodden by the elite of the Japanese community, such as there were.

Mused Yae:

"So? He is rich. How has it come about that one of our race, an immigrant, is so well-padded with gold as you say he is?"

Answered Mrs. Abe with eager celerity:

"Well, I tell you, Yae-san, I don't rightly know for sure, but my husband says that he loses several thousands of dollars in the what-you-call poker games these 'hakujin' play for the fun, a kind of 'bakuchi-uchi,' and the funny part is that he never seems to care whether he loses or not, because his expression never changes. It is strange. My husband says he owns much valuable property in the next city....I can never pronounce these outlandish names, can you?.... and he owns our biggest rice-mill and he has his fingers in every sort of money-making thing. The 'hakujin' think a great deal of him, and I believe he does a lot of business with them. My husband knows a man whose cousin works for this Sekine-san, and he says they make good money, much better than farming the rice-fields back home."

"Is that so?" was Yae's only comment on these occasions except for a little judicious prodding to which Mrs. Abe responded gallantly.

Yae listened, and half - believed, as she had done once before to the tales of this fabulous land..and made a silent decision. She would acquire that man before long, before any other woman did....that is if he were single. This afterthought was only an afterthought; it did not deter her much. True she had not heard of any wife, but that was beside the point. The next time she met him socially, she pointedly, and studiously ignored him.

Now Mr. Sekine was far from being a proud man, he wasn't vain..not so that you could notice anyway. .Indeed he cared very little for the trappings of success, and he took no particular interest in the deference paid to him by his less wealthy countrymen, but, when a woman, and such a woman as Yae with her sleek beauty, her sly eyes, her compelling energy, ignored him as rudely as she did....well, that was a slightly different matter.

"A stuck - up female," he snorted, "no manners, less gentility!"

That was his first reaction after the first snub. Later on he wasn't so sure of himself, and was unwillingly intrigued by her continued indifference. As you may guess, he hadn't, as yet, met a woman who was insensible to his looks and wealth, his place in the small society of Japanese immigrants. Then, after all, he was awfully bored with the women who sought to attach his gold to their unattractive selves, or to their grown but immature daughters with clumsy feet and hands raw from work. After all this Yae woman was pretty. She had a pair of dainty hands and feet, and an exciting, brooding smile. So there you were, he had been as good as snared ....well, almost.

One day he deliberately sought her out at the dressmaking shop by pretending he wanted a shirt made of special silk that he had imported for his store on Oppenheim Street. Yae had, in the meanwhile, transferred her activities to the dressmaker's trade because housework ruined one's hands for the purpose she had in mind. Of course she had gone to Mrs. Abe, who was big-hearted if overmuch given to chattering. Well, this day, Sekine lounged in, nonchalant, scarcely paying any attention to the several women bent over their work, Yae among them. Mrs. Abe was quite flustered with his request, knowing that he always went to some swanky 'hakujin' haberdashery.

"We are honored, Sensei. I, myself, shall put the stitches on this most beautiful cloth. Will you come this way and deign to be measured?" and she led the way, bowing and hissing behind her teeth, to a back room where there was a full length mirror, a table with its box of head-pins, some coat hangers. Not seeing the tape-measure anywhere, she called into the workshop:

"Yae-san, will you bring me the measuring tape? I am sure it is somewhere around there."

"Hai, shochi-itashi-mashita, I will bring it," Yae answered in her cool, liquid voice, a smile hidden beneath suddenly dancing eyes.

Sekine watched complacently as she brought it, and his glance flickered over her, taking in the trim little body, neatly fitted in black. H'm, he mused, she couldn't be more than thirty, a widow, with a son, he'd heard. He thought that she looked very capable for her size, and might be deucedly entertaining, too. He felt he must get to know her better.

"Arrummph! I believe I have met you before, have I not? You are from the same prefecture as myself?" he asked confidently.

"Hai, so de gozai masu," she replied demurely.

"Ha!"

"Gomen kudasai," she murmured and excused herself from the room, her face in the shadow.

"Ah, moshi-moshi...." he begged, but she had gone.

He looked down at the woman who was timidly measuring his square shoulders, and asked:

"Her name is Tanaka, is it not?"

"Hai, Sensei. A good seamstress, and hard-working too, as she supports her son who is in the Jesuit college in the Capital."

"H'm."

And he let it go at that. As he went back into the front of the shop again, he gazed around until he had sighted the one he searched for. There she was, centered on her work, not looking up as the others did. There was, disdain in the curl of her exquisite lips....and a laughing ridicule for his obvious pretense. So, she guessed why he had come here, eh? Good, good, all the better for a sweet revenge, though at the moment he wasn't sure what the revenge was for. Many a lurid word passed through his mind uncensored at the woman's shrewd appraisal of his tactics. He got out of that shop as fast as he could and with as much dignity as he could command, but he knew that Tanaka female was laughing at him. The thought made him boil with suppressed rage. Just wait and see, he promised, he'd show her who was who in this community!

Back in the shop, the ladies chattered and wondered on the reason for the great man's coming to this little place for a shirt. Surely he did not need another one, on top of all he must have. They speculated and guessed something near the truth. One of them said with a sly laugh:

"To my mind, he came here out of curiosity."

"That's the truth," said another, "it's only reasonable. Which one of us did he come to see? Can you tell us, Yae-san? You spoke to him, did you not, in the inner room?"

Their concerted eyes turned to her, and of a sudden it came to them that Yae was a remarkably pretty woman, and really refined-looking compared to their drab selves. Could he have come to see her? He must have. It was said he had an eye for beauty. Feminine gratification lit their faces as they one and all chuckled, Mrs. Abe too. They began to tease her.

"Oh, Yae-san, such a man as he came to see you, such a man as has never looked with desire on any woman yet, though he likes them doll-like, they say. What do you think?"

"There is nothing to think. If he is curious to see a newcomer, why, let him, say I."

"Why, goodness! Aren't you even excited?"

"No," said Yae, and smiled at their incredulous faces.

"Oh, oh, what a woman you are ....and he such an eligible person! Who knows what might not happen?"

The others chimed in and agreed that Yae was a cold creature not to be elated that the wealthy Sekine-san had come to look her over. Yae laughed outright.

"Why should I get excited? Shall you expect me to faint or something?"

Yae's laugh was full of scorn, but underneath she was terribly gratified. So, he had to come to see her. Well, let him. Perhaps, the next time she might....just might.... smile. Let him finally yearn for her desperately; let him beg for her favors. The proud eagle should stoop for her favors, crafty little wren that she was.

* * *

If you must have the truth, Mr. Sekine, that self - sufficient man, was having a bad time. He had never in his life hankered for a woman; he had looked on them as a necessary adjunct to their drinking parties, especially the cute ones, those painted wenches who poured the hot sake and sang in their hoarse voices the latest love lyrics. Other women were too drab to merit attention, and really now, one couldn't expect him to be bothered by half-grown fillies. Now, this Yae woman was getting on his nerves. For the life of him he couldn't take this matter to his friends. They would laugh at him, and forthwith call for a match-maker. The gods forbid! He wasn't marrying anyone, much less a woman who laughed at a man to his face almost. No, no matter which way he looked at it, there was no way out of his dilemma. This was altogether against the best traditions of his race, that he should be acting, or rather thinking, like some mummer on the stage mooning over an erotic mistress. Enough to see it on the stage without having it happen in real life—to him of all people!

"Drat the woman! Can't I get her out of my mind?"

Cursing did no good, however, as he felt only a growing exasperation against all women. This was the frame of mind he was in when he went back to that shop to collect his shirt. He couldn't help but go, as the Abe woman had phoned to remind him it was done a long time ago, and would his excellency come to fetch it? He could hardly delegate such a delicate errand to anyone else, could he, and have the embarrassing situation brought to light? He went into the store with a heavy, purposeful tread, and had the proprietress all in a dither, as he brought forth an impressive roll of greenbacks to pay for the unwanted shirt.

"Many, many thanks, Sekine-sensei, it was such a pleasure to work on such beautiful cloth. It isn't every Japanese that can afford to wear such a..er..shirt."

Mrs. Abe scraped and bowed as she wrapped it up for him. He payed no attention to her, but glanced around to encounter Yae's slight smile of recognition. His spirits did an unexpected double somersault, and surprisingly he felt jaunty and swashbuckling. He bowed in return and forgot his change magnificently. He picked up his parcel and shoved it into his capacious pocket, and forgetting every resolution to 'show that woman', he left the shop in a daze.

We-ll, after that, what could you expect? Not only were the gossips kept busy, but two matchmakers vied with each other to pluck this luscious, gold-plated plum. They waited with bated breath as events marched, and Mr. Sekine seemed more enamoured than ever with this woman. Not that he ever took her out in the accepted western way; oh no! he hadn't quite fallen to that yet. Anyone with half an eye could see what was bound to happen. The little widow was very circumspect, very polite....and properly aloof. She smiled at him oftener, but then, that was understandable. What woman wouldn't give her eyeteeth to attach such wealth?

Finally Mr. Sekine's best friend called on both matchmakers....not to create bad feelings....and expressed his patron's desires pertaining in a certain quarter. In the course of the next few weeks there were many polite bowings and greetings and submissive hissings behind the teeth, much conference, acquiescence, consultations. At length everything was concluded in a most satisfactory manner. The widow, Yae Tanaka, had consented to marry the heretofore unmarried Mr. Sekine.

The ceremony itself was the traditional 'san-san-kudo,' with shallow wine-cups of lacquer-ware being passed from groom to bride and back again three-times-three - to - make - nine, by two young girls dressed in the colorful costumes of the old land. Very few were present, beyond the intimate friends of the groom, the friends of the bride....and, of course, the priest in his flowing black robes and white embroidered surplice. Afterwards there was a riotous celebration at the most expensive restaurant on Powell Street, where many 'kandokkuris' or rice-wine were served to the guests, and delicacies of the most exquisite shapes, tastes and colors, artistically arranged in individual lacquered boxes were presented to each and everyone to take home. It was a reception that filled the gossips' tongues for the next nine days.

As a concession to the western custom, they went to Seattle for a week's honeymoon amid a much inebriated send-off. Fine feathers made a very fine bird, and Yae was no different from her kind. She splurged. She bought rich broadcloths, soft woollens, finest silks, all cut in the latest fashion, a luxurious fur collar and an enormous muff of ermine, and many, many bright flowers and ostrich plumes for her many hats. She had, too, a heavy gold buckle much carved and laden with gems for her belt, and a gold watch on a thin gold chain to hang around her creamy throat in the current fashion. She bought fancy laces for her blouses and several, not one, brooches to hold them in place under her chin. Her acquaintances volubly envied her lot.

(Continued on Page Three)

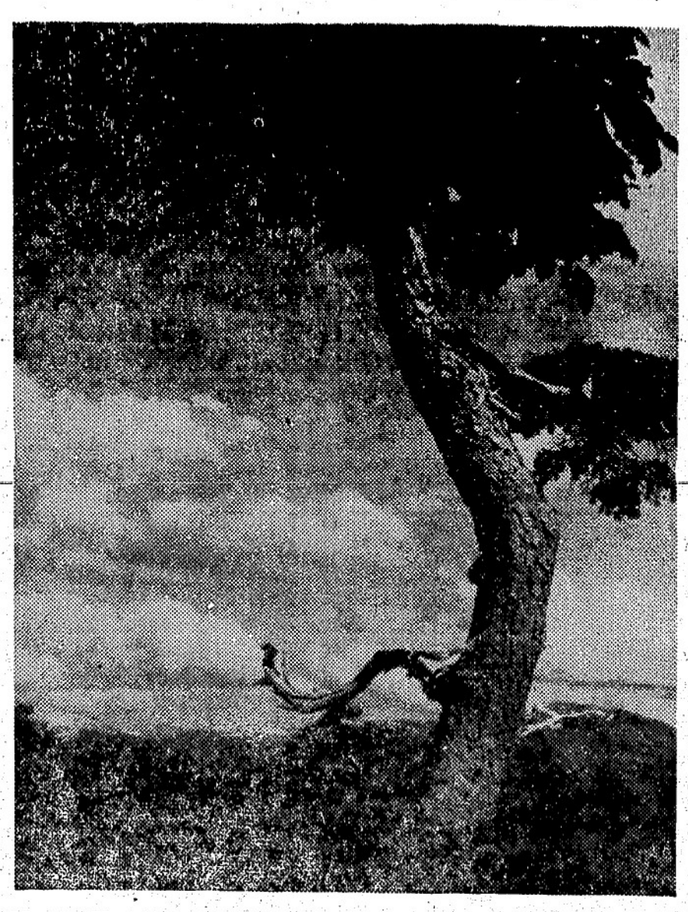
Fourth Prize

"FARMERETTE"

Tak Toyota of Duncan won fourth place with his "Farmerette". Gaining his points in subject matter and interpretation, adjudicators saw room for improvement in printing-composition.

Fifth Prize

"SUMMER SKY"



Harry Kuroyanagi of Ocean Falls won fifth place with his "Summer Sky". Printing was beautifully done but the composition fell a little short of being perfect, according to adjudicators.

Give.....

LADY POWELL

HOSIERY ...

This CHRISTMAS

LADY POWELL Chiffons are:

✻ EXQUISITE
✻ BEAUTIFULLY SHEER
✻ 'CATCH' - RESISTING

We also carry:

✻ *SUPERSILK* and
✻ *CORTICELLI HOSIERY*

79c to $1.25 pair

✻ LATEST SHADES

AT

SHIBUYA'S

374-8 Powell St. MArine 7741

Amateur Photographers Reveal Talent In Recent Contest Here

(Continued from Page 2)

The OLD LADY

Sekine's enchantment lasted exactly sixty-nine days.

On the evening of the sixty-ninth day, he had come home pleasantly anticipating a quiet, after-dinner leisure to talk over some of the more interesting events of the day with his intelligent wife; to play a game of solitaire which he had tried in vain to teach Yae; to retire again well-satisfied with the bounteous blessings of life. He got mischievous pleasure in bowing this wife of his bosom with a tricky financial problem, watching her screw her face up as her indifference sharpened to concentrated effort in trying to solve the complications of his daily business. Sometimes he was surprised at the shrewd understanding that she had inborn for money matters. Well, this evening he came home with the usual feeling of comfort and satisfaction. He ate his dinner with a good appetite, and went into the front room to enjoy his pipe while Yae cleaned up. Rich as he was, he scorned hired help around the house, where a man ought to have some privacy. In about half an hour Yae came in with her mending to sit in her usual place, a silent companion. Sekine was greatly gratified with this jewel of a wife.

To get on with the story, this night he was bursting with news, so much so that he could scarcely wait to get around to the subject; nevertheless, he waited a decent length of time before he casually mentioned:

"I made a smart deal today. Got the better of that other fellow I told you about last night. Remember?"

"Yes, Husband, I remember."

"Did another good piece of business, too."

"That is fine, you always do."

"Uhuh."

Sekine was complacent. He continued, knowing he had her undivided attention:

"I sold that logged-over bit of land, forty acres, just this side of the new business district. Didn't think I'd ever get rid of that land with such a big profit too, but apparently the town is spreading out that way, and the real-estate men think it is going to be worth untold millions someday, and what do you know, I got $50,000 for it. What do you think?"

He sat back to enjoy the incredulous look on his wife's face. $50,000 for worthless land! She was enchanted. A fortune that was unearned! What would they do with it? Why it could buy that bit of property back in the old village many times over! Yae's eyes gleamed, so that she had to quickly bend over her work to shield them from her husband's too curious glance. She concentrated on the hole in the sock, thinking the while how she could get her hands on some of that money. If she had only had, she would be the wealthiest woman back home, enough to make the other villagers goggle and look up to her in amazement and respect. Her erstwhile step-brethren too, could now be put in their places. She felt a fierce longing to do so.

"Well, Yae," asked Sekine, impatient for her praise, "what do you think of it?"

"Why, husband," she answered slowly, "I scarcely know how to congratulate you on such a marvellous piece of fortune. It takes my breath way."

And it did, you know.

She looked at him, her eyes shining with excitement, her lips parted in a dazzling smile for this wonderful man of hers. Her very tones flattered him, soothed his vanity.... which had come to life after his marriage....and the trembling of her voice did not convey to him anything of her inner seething. Yae dropped her mending and clasped her hands in sudden resolution.

"Husband, this money, is it pure profit?"

"Pure gravy. Why?"

"Well, I was thinking....you see, back home in my old village, there is some property I could buy cheapy and someday sell at a great price. You see through it will run a road when traffic becomes greater, and whoever has that land will have the right of way. The present owners are very poor, and would be glad to take present profit instead of future gain. It is just this side of the bridge which they write me that the government is rebuilding. It is a mere $3000 in American money."

Yae continued without stopping—

"If as you say, this money is pure profit, then can you not let me have ..say..half of it? After all, to you, it is only chicken-feed, and I am sure you can make that amount anytime you put your mind to it. Please, husband, let me have it, it means so much to me...."

Her voice trailed away, as she waited for him to answer.

Sekine had listened at first with amused disbelief. In those days a woman had no business handling money or going in to business like any huckster. There were limits to where a lady could break conventions, and anyway, a wife had no right to calmly ask her lord and master for half his business profits to gratify some personal whim. Incredible! Sekine, more than any other man, disliked the pushing sort of woman. That was why he could not believe his ears; why he kept his eyes glued to hers, wondering what was going on in that pretty head of hers. Did she really think he would give her the money, and have other men laugh at him for a henpecked husband? Yae, too, kept her face toward his, but her eyes were veiled. She did not wish this man to know that the overpowering desire she had for that money was consuming her good sense. She waited. At last, after what seemed an eternity, he answered:

"Do you really mean what you are saying? What does a woman want with all that money? It is not the thing for you. Don't I give you enough? Why must you want to buy some worthless land you will probably never see again? What are you thinking of?"

"Do you refuse my request?"

"Of course I won't give you all that money, but if you want that land so badly, why, I'll instruct my man in Yokohama to buy it in my name. Does that not satisfy you? I'll give you, too, some money to buy more clothes if you want."

An unexpected rage and frustration blinded her for a bad moment. She shut her eyes and silently rocked herself in her chair. These stubborn males! The stingy..(gasp)..domineering fellow! As if that money were all he ever had! As if she didn't know that he had ten times that amount tied up in other highly profitable businesses. Her anger got the better of her, her anger that was made up of these many weeks of hard self-control, and she shot at him with spite that astounded him:

"....and what would you do with all that money? Like as not, even if you didn't give me a penny, you'd spend a great part of it in some futile poker game, or put it into more enterprises to make more money than you'll ever need. You never let me hire a maid, a cook, or anything. I never see any cash, except I must use it for geegaws. You spend it more foolishly than I ever would. You would give it to the first one that told you a good sob-story, to every drunken friend that lives on you. You think that because I am a woman I am content with the purchase of more clothes and jewels than I can ever use. You think that because I am a woman I have no head for business. Bah! I could do things in business as well as any man, and if I hadn't been limited by my sex, I would have done so long ago! And I wouldn't be as slipshod as you are. You're too easy-going. You lose as much money as you make, because you expect the small details to look after themselves. How can you build a firm business without taking as great a care of the smallest item as you would the biggest? Give me that money. I'll not waste it. Most likely it will come in handy one of these days when you have run through your fortune in your careless way."

Yae stopped for sheer lack of breath, and glared at him sitting opposite like a stupid clown, his mouth hanging open. As for him, he was too dumbfounded for speech. Had he heard aright? Was this the woman he had married....the soft, sly minx he adored in the depths of his heart? Heavens, how bright her eyes were, snapping at him like that. Random thoughts rushed through his mind, but he sat there, his pipe forgotten, his peace shattered, a slow realization now that Yae had deliberately married him for his money, and she had succeeded only too well. He forgot his other profitable deal that had been so much mud in his rival's eye....the contract with the Dunsmuir Collieries to supply the immigrant Japanese laborers there with the necessary food and wherewithals of life.

He stood up slowly, his disillusion complete, and went over to his wife, towering over her, undecided whether or not to strike her for this shock. Yae did not flinch, but sat there tensed, not knowing what to expect for her outburst. Gradually Sekine relaxed. Before quitting the room and house, he said to her quietly with foreboding emphasis:

"Fool!"

* * *

The next day he woke up with a violent headache. He remembered the splendid spree of the night before when he had drowned his disillusion in countless cups of sake and the western brew called whiskey. The mixture, he also remembered, hadn't been fortunate, and he had become fuddled for the first time in his life. What was it now that had started him off? With a wrench he concentrated on it, and groaning, he turned over in bed, pulled the blankets about him in a frenzy of self-directed fury.

"That woman! After all I've done for her. Practically took her out of the gutters to make a lady of her, and this is her gratitude! What ambition, what adroitness! What a fool I was to be taken in by such a one! Wants me to turn half my wealth over to her! A woman saying such things to me! Says I'm sloppy, and says too she can manage my business better than I can! Insupportable! And I thought I had captivated a charming woman! Fool that I am! The gods will laugh at this. Damn!"

Yae was calmly preparing breakfast in the sunny kitchen, and thinking thoughts that would have surprised the angry man her husband had become. She was thinking that she could soon make him think her way. After all, was he not infatuated with her? Let him get over his first surprise at her acumen. He was a man after her own heart, except for his slovenly methods. She didn't think though that he should have to go and drown his surprise in a grand drunk. Since she was entirely devoid of the finer sentiments, she could not begin to understand the terrible disappointment she was to her conventional husband. Her feminine wiles were for a strictly utilitarian end, and once she got what she wanted she went from there direct to the next place. She hadn't given the poor man two months before she had wakened him from his bliss. However, as the morning dragged on and no husband, she went to wake him.

"Ne, anata, wake up. It is late."

She shook him, but he only groaned and turned away.

"Are you sick?"

"NO!!"

Sekine roared from the depths of his disenchantment, as he leaped from his bed, almost pushing her over in his hurry to get away from her.

"Must you yell? What will the neighbors say?"

"To hell with the neighbors!! Get me my coat!"

"Surely you are not going out without eating your breakfast."

"Why should I eat if I'm not hungry?"

"WE-ell, if that's the case....by the way, you were carried home last night. I think you had better be more circumspect, especially now when you have this important deal to handle that you told me about last night."

"What's that to you. Shut up and leave me alone!"

"Why husband, what is that you say?"

"I said, keep your mouth shut, you've said too much already."

"I must say, you are dreadfully rude...."

"Shut up!!"

Yae shut her mouth primly and left the room. Back in the kitchen she made a resolve. Something was wrong somewhere, and the best thing to do would be to leave him alone for a time. When Sekine came home for dinner, she broached the subject to him. He was silent and morose as he chewed away.

"Husband, what do you say to my going to Japan for a while?"

"Huh?" What's that you say?"

"What do you think of my going to Japan?"

"For good?"

"Oh not necessarily. I just want to see the home town and see how my other children are."

"Yeh! Your children! You didn't tell me in the beginning you had three of them besides that rascal son of yours."

"You didn't ask me."

"Why should I have?"

"Well, what do you say?"

"Go ahead, if you want to. Maybe you'd like your village to see how prosperous you've grown, eh?" he asked with a grimace.

"Why not? May I have that $3000?"

"Still harping on that eh? Well, why not, as you say, if it will make you happy?"

Yae was so busy with her own thoughts centered in that far-away village that she did not see the sardonic grin on his face. She wouldn't have known what to make of it if she had seen it.

"That's very kind of you."

"Certainly not. Cheap at the price

(Continued on Page Four)

Judges Impressed By Artistry Shown

As a record of the 1940 B. C. Amateur Photography Contest held Nov. 29, under co-sponsorship of Nippon Camera Club and Tairiku Nippo, the English Section presents four of the prize winning pictures in this issue.

Mr. Jack Balkin, former president of Vancouver Photography Society and Mr. Jack Helm noted amateur photographer, and Mr. Densaku Kondo, artist, were the adjudicators.

Mr. Balkin when commenting on various works was highly impressed by standards set by competing pictures. "It was with great difficulty that we were able to grade the various works", he said, and added that "pictures were better than I thought they would be."

Prize winners were:

1st: Eichi Hayashi's Going Home (Vancouver).

2nd: Setsukichi Harada's Still Life (Vancouver).

3rd: Eichi Hayashi's Mother and Child.

4th: Tak Toyota's Farmerette (Duncan).

5th: Harry Kuroyanagi's Summer Sky (Ocean Falls).

6th: Sueji Koyama's Bridge (Woodfibre).

Honorable Mention: S. Harada's Summer, When Day Is Done, and Chief's Wife; Kiyoshi Kakutani of Britannia with his Smoker.

First Prize

"GOING HOME"

By E. Hayashi

Eichi Hayashi of Vancouver won the Tairiku Cup, first prize, with the above entry entitled "Going Home". It was the only work to receive full marks for subject matter. Printing and composition were praised. A second Hayashi entry "Mother and Child" won third prize.

Second Prize

"STILL LIFE"

By S. Harada

Setsukichi Harada of Vancouver won second prize also Tairiku Cup with his "Still Life" largely because of its excellent printing. Adjudicator Balkin encouraged Mr. Harada with the remark that "he will become an expert in the art of printing pictures if he keeps up his good work".

It's Maikawa for TIES

Neckwear, that ever popular and practical gift, takes on added distinction when it bears the MAIKAWA label, for it is generally conceded that there is no finer assemblage of quality ties shown anywhere than that displayed here.
Plain ties, and fancy ties, gay ties and conservative ties ... ties for every taste and every occasion in a price range to suit any budget requirement.

50, 75, 1.00 1.50 2.50

SOME GIFT SUGGESTIONS

Arrow and Forsyth Shirts	2, 2.50, 3, 3.50
Pajamas in new colors	from 2.00
Gabardine Sport Shirt	3.00, 5.00
Sleeveless Pullover	2.50, to 7.95
Sport Belt	1.00
Penman's and McGregor Hosieries	50 to 1.00
Jewelry Accessories Set	2.00 to 5.50
Zantzen Zip-front Sweaters	4.95 to 7.95
Suspender and Garter Set	1.50
Tie, Scarf and Suspender Set	1.50 to 3.50
Spats	1.00 to 2.50
Gloves	1.25 to 4.50
Bill Folds	95 to 1.75
Boxed Handkerchief	1.00 to 3.50
Pen and Pencil Sets	1.25 to 12.25
Pinaud Set	98 to 2.00
Shaving Set	59 to 1.50
Dressing Gowns	4.95 to 8.50

T. Maikawa Stores
—LIMITED—
369 Powell Street Vancouver, B.C.

TAIRIKU NIPPO

(The Continental Daily News)
(Established 1907)
Published at
213 East Cordova Street
Vancouver, B. C.
Phone: MArine 5651

Tairiku Nippo English Section is now maintaining a daily schedule. In addition to the Thursday separate issue, half-page sections are published on Tuesday and Saturday with quarter-pages on Monday, Friday.

Please address all communications to this department, "English Section," for quick handling.

Subscription: 75 cents per month.

Making a Real American

A writer in The San Francisco Chronicle has, we think summed up the idea of the real American. He brings out the point that we have long insisted on. Joseph Henry Jackson, in a review of Louis Adamic's new book, "From Many Lands," stresses the point we have in mind.

In his review, Mr. Jackson referred to "Americans who are not quite Americans in spite of themselves." He later received a letter from a critic who complained of the expression. He suggested the phrase, "Americans who are Americans in spite of what the old stock Americans think?"

Mr. Jackson says perhaps this is a smoother way to express the idea. The correspondent then goes on to say that he thinks an American might be defined as "A process of thought and action at the base of which is the democratic way of life." To this the reviewer takes exception. He says that would mean an American is just a "Process of thought and action." He says an American is also a man of flesh and blood and emotions, most particularly emotion. He believes that is the whole point to Mr. Adamic's book.

Mr. Jackson continues that a member of a racial minority group may be more thoroughly democratic than any tenth generation of Anglo - Saxon stock. Then he states the idea that we like best:

"But—and this is why Mr. Adamic's book was written—if other Americans don't know about him—well, is he in the fullest sense an American? Can he be, in spite of himself, as I put it—in spite of his complete intention and feeling—fully an American in all senses of the word, until and unless every other American, of any racial background, admits he is?"

That statement, in our opinion, tells the whole story. Mr. Adamic's book was written largely with the purpose of telling Anglo-Saxon Americans about those of other racial origin. Such organizations as the Japanese American Citizens' League are doing much to forward this work and are meeting with considerable success. However, old stock Americans have a duty and there will not be national unity until they grant recognition.—Seattle Japanese American Courier Editorial.

What on earth would a man do with himself if something did not stand in his way?—H. G. Wells.

Evening Gowns for the Ball at Modiste

It's almost waltz time in Vancouver for the Christmas Ball is only one week away. It's high time that dream-dress was chosen to go with the silver slippers in your closet just raring to go places!

Modiste's on Granville Street knows the secret desires of the feminine heart. On their racks, fresh from the stock room, are dresses and dresses in all the colours of the rainbow.

Perhaps you want to be girlishly demure. Modiste, ever in step with New York fashions, are featuring dainty, filmy creations for evening allure, with bouffant skirts, sweetheart necks, fitted bodice, and spangled with silver or gold. Alice Blue to emphasize your petite fragility! Pale pink and sunny yellows to complement shining black hair and the golden tones of your skin! White and silver to make you look like a Christmas angel!

Modiste can show you the latest in any colour you desire. And there are the draped crepes, with pencil slim silhouettes, covered-up shoulders, controlled fullness in the back or below the waistline, girdled with rhinestones or sequin belts.

Drop into Modiste's today, and select your favorite model. Glamour awaits you.

(Continued from Page 3)

The OLD LADY

....and Yae, I suppose you want more for incidentals, eh?"

"Of course."

Then Sekine made up his mind. He was never a man to do things by halves, and now he did not quibble. After all, he had had sixty-nine days of unalloyed happiness, and if that was all he was going to get, why, he could well afford to pay for it in cash if that was what she wanted. So he decided to give her the $3000 plus another ten thousand or so. Perhaps he ought to give her all of that $50,000 ....he never wanted to see a penny of it again!

"All right, Yae, I'll arrange everything for you. When do you leave?"

"The next boat leaving three weeks from today."

"By yourself?"

"No, I'm taking my son. I might be able to arrange a marriage for him. You, I'm sure will get along. You did before we married."

"Oh, sure, sure."

So it happened that in less than three months, the Sekines parted, little knowing that never would they see each other again this side of eternity; that before she set foot in this country again, he would be gathered to his ancestors, after a wild dissipated life. He watched her go with conflicting emotion. All his unadmitted love, his passion went with her and left him lonely, embittered. He gave a last wave as the boat churned away from the docks, then pulling his cap lower over his face he turned back to the city—alone.

• • •

Yae went home in style. The whole village turned out to meet her, to welcome their adventurous daughter back to the familiar places. She lorded it over her now repentant half-brothers and sisters, showed off her fine clothes and jewels, spoke a few words in English to prove how accomplished she was in the western manner. Her triumph was long and continued. The 'soncho' or head man of the village came to pay his respects and money and lands changed hands, smoothly. There was even a great banquet in her honor, where all the choicest viands in the place were served up to her with great and servile deference. How her small soul expanded under this adulation!

"....and we hereby officially and respectfully welcome back to our village the illustrious daughter of our race, who has proven herself great beyond measure in venturing to that strange land across the seas, and who now has come back to us, in this our village, to live among us....for a while, at least....an example of courage and wisdom for us all."

She had shown them!

• • •

EPILOGUE

Yae lived long, but whether or not worthily is a matter of controversy. She was flattered by her fawning sycophants, hated by her dependants. To the end she maintained her hold on the family, but when she died there was nothing left of that great fortune that was hers after the death of Mr. Sekine. Except in the immediate family, no one mentioned the trail of unhappiness she had spread around her. All that was forgotten in the flamboyance of her generosity to the church and needy impostors. Only her dependants remembered the ruthless temper of the old lady, her bland disregard for their likes and dislikes, and how she had squandered in her later years the fast disappearing fortune.

And now....

There she lay, still, hawk-nosed and grim, her eighty years laid to final rest.

—Finis—

(Continued from Front Page)

U.S. NISEI

tween Two Flags" appeared in the Saturday Evening Post. Through the sympathetic understanding of its author, Magnar White, the niseis of Los Angeles spoke to the Post's reading public. Recently, the Life Magazine generously introduced the L. A. niseis in pictorial effect. And in these gestures we realized the answer to our pleas "to know us" for what we really are—American citizens of Japanese parentage seeking release from the question mark of prejudiced suspicions reflected upon us as a group.

Hereabouts, the Puyallup Valley chapter of the Japanese American Citizens League is conducting a "know us" campaign of our own...and very successfully through the generous cooperation of The Times and other newspapers. Annually, the Valley chapter whose membership is comprised by the nisei youth of Fife, Firwood, Puyallup, Sumner, Alderton, Orting and vicinities sponsor the highly-successful Carnival-Bazaar at the Fife high school auditorium.

From the city, from the valley—the general public has responded in multitudinous droves. Annually the attendance mark goes over the one thousand mark—at times, fully one-third of that crowd representing an enthusiastic group of our American friends. And year after year, the business firms of Tacoma and the Valley contribute generously towards its success....

GIRLS COLLEGE
of
PRACTICAL ARTS
Dressmaking, Embroidery, Artificial Flower Making and other Arts
Mrs. Sada Shinobu, Principal
308 Alexander St. TRin. 0283

UNION FISH COMPANY
469 POWELL ST.
HIGH. 0335-0336

Ashikawa Way Ahead: Tops Scorers In Senior Hoop Division

Unquestioned scoring leader in Japanese Basketball League's senior division is "tall and handsome" Shige Ashikawa, ace forward on undefeated Harrys team. In four league games, excluding Woodfibre and Seattle contests, Ashikawa garnered 60 points. Goozie Suzuki who has played in only two games stands next in line with 25.

SENIORS

	GP	Pts	F
Ashikawa (H)	4	60	5
Suzuki (M&N)	2	25	1
Shimoda (AS)	4	22	10
Ishida (M)	1	22	3
J. Miike (AS)	4	21	5
Akiyama (H)	4	21	13
Hirano (M&N)	3	20	5
Suga (M)	2	18	5
S. Miike (AS)	4	17	1
Nikaido (M)	3	15	4
T. Tokawa (AS)	3	15	4
Hori (H)	3	14	0
Hashimoto (H)	4	12	4
Tanaka (M&N)	3	11	5
Uno (M)	4	11	5
Onishi (H)	4	11	3
Fukumoto (AS)	4	10	2

Aggressive Joe Akiyama has most personals—13, while Wakabayashi and Yanagisawa have been careful drawing 9 and 6 respectively.

INTERMEDIATES

	GP	Pts	F
J. Miike (M)	5	84	6
S. Mike (M)	5	50	7
Suga (E)	5	49	3
T. Tokawa (Mo)	5	47	7
K. Ichino (S)	5	43	10
D. Naruse (S)	5	34	8
Shimoda (E)	5	33	13
T. Machida (Mo)	5	31	1
Fujioka (M)	3	30	4
Fukumoto (M)	5	30	6
Yamashita (N)	3	25	1
Mitsui (N)	5	25	8
A. Tokawa (Mo)	4	23	9
Kadonaga (C)	5	23	8
K. Mukai (S)	5	23	7
Koyanagi (C)	4	22	2
Takada (Mo)	5	22	5

GIRLS

	GP	Pts	F
Akiko Yoshinaka (C)	2	13	1
Haruko Maruno (BB)	2	12	2
Marge Kusakabe (BB)	2	11	4
Sumi Ota (C)	2	10	3
Sally Kitaguchi (S7)	2	10	0
May Yoshinaka (BB)	2	7	1
Florence Ikeda (C)	2	6	0
Yoshiko Tanaka (S7)	2	6	0
Marie Akiyama (S7)	2	6	3

JUNIORS

	GP	Pts	F
Maikawa (Y)	4	34	2
Sunahara (T)	3	32	2
Kawamoto (Y)	4	30	1
Natsuhara (Y)	4	29	5
Matsuba (Tr)	2	26	2
Kimura (Y)	4	25	3
Ochiai (T)	3	25	2
N. Fujisawa (M)	3	22	4
Hasegawa (M)	3	21	0
Hyodo (T)	2	21	0

CAGE STANDINGS

SENIORS

	W	L
Harrys	4	0
Maikawa	2	1
All-Stars	1	3
M. & N.	0	3

INTERMEDIATES

Marpole	5	0
Nomads	4	1
Monarchs	3	2
Ernies	2	3
Nippatsu	1	3
Celtics	1	4
Steveston	1	4

JUNIORS

Tuxis	3	0
Yehudis	3	1
Monarchs	2	1
Marpole	0	2
Trojans	0	2
Mikados	0	2

GIRLS

Cardinals	2	0
Blu-belles	1	1
Silver 7	0	2

Nisei Sports

Jimmy Railton, chairman of Pro-Rec Christmas basketball tourney, yesterday was asking why Japanese failed to enter a team this year, which goes to show we can be conspicuous by our absence. Chinese Students ousted a Senior B team Tuesday which brings to mind that in Seattle, Chinese have teams in Class AA and C, Japanese leagues, and doing well too.

Our G.V.A.A. team is having a lot of fun—even though they must suffer the sometimes caustic castigations from Captain Yoshio Matsui, the one-man brain-trust. We sympathize with the girls particularly because by nature they expect soft words and stern commands would naturally upset them. However, Matsui is Matsui, so when it is one of those "do or die" affairs, we must expect him to fume and froth at the mouth. Matsui-san, "do-o ka yasashiku."

'Shuttlers Need Practice'....Mat

After their disastrous showing against the second ranking Die Hard G.V.V.A. badminton team Monday, Captain Yoshio Matsui decided the Strathcona squad will have to hold a practice session all by themselves early in the new year before the league gets under way again.

Shaughnessy Bees who have beaten Die Hards are leading so Strathcona's only hope for championship honors is if Die Hards can take the leaders in second meeting. Every match counts as there are no playoffs...that's why Monday's 7-9 decision was tough.

Particular emphasis will be laid on mixed doubles play, according to Matsui who is far from satisfied that Strathconians are playing at their "peak".

GYM OPEN TO PUBLIC

Strathcona gym is open to Japanese School players tomorrow night, providing they supply own shuttles, it was announced. Doors open at 7.15.

Tuesday Evening Basketball Statistics

Monarchs subdued Ernies 37-20 and Nomads beat Celtics 16-10 in Tuesday intermediate contests. Details were reported yesterday.

Ernies: Umakoshi, Arai, Nakatani 1, Shimoda 8, Sato 2, Tanaka 2, Suga 7.—20.

Monarchs: Toyama 8, Miyasaki 4, T. Tokawa 9 Machida 9, Inose 3, Takada 4.—37.

Nomads: Nishimura 5, Akiyama 2, Tabata 2, Ozaki 1, Fukui 4, Mitsui 2.—16.

Celtics: S. Kano 1, Sasaki 2, Ishikawa 6, Minaminaye 1, Kadonaga, Miki, Omotani, Kano.—10.

ROLLER SKATING DATES

Monday, Dec. 23: Hompa, Happyland 7.30 p.m.

Sunday, Dec. 29: Japanese Table Tennis League, Happyland, 7.30 p.m.

2 Soccer Teams Claim Default Wins

Senior and junior soccer captains are asked to meet tomorrow night at 7 p.m. in Tairiku Hall, Shadow Nakatsuka announced last night.

The Japanese Soccer League received two protests, one each from senior and junior divisions this week. There seems to have been confusion about time and place in both cases.

Kitsilano Redwings think the Nakatsuka team should give them the December 8 tilt by default since they failed to turn out. Redwings claim Nakatsuka members should know all senior games are played in the morning and could have secured exact time by the simple process of phoning.

The other protest concerns Fairview Bluebirds' claim that Cambie Tigers defaulted last Sunday's game. Tigers hold their team went to a wrong park and because of fog were delayed, according to one version.

Fog postponed senior games last Sunday will be replayed his week-end with New Westminster Tailkus meeting Redwings and Cambie Tigers travelling to Nakatsukas.

Juniors have Ex-Strathcona at Redwings; Bluebirds at Tailkus, 10 a.m., Lord Tennyson; East Enders at Thunderbirds, 1p.m., Powell.

For Christmas...
New Remington Rands
FIVE PORTABLE MODELS
—$39.50 to $80.00—
Ask for a demonstration
TAIRIKU NIPPO SHA

Marietta School of Costume Design
857 Homer Street
MArine 0983

NUMONT-FUL-VUE
Beauty in Simplicity
HAJIME SUZUKI
OPTOMETRIST
377 POWELL ST.
SEY. 1185
MARINE 2036

Californian Threat Stopped

Cage Line-ups For International Tilts

Named to play against Seattle Hornets December 26 were Shige Ashikawa, George Suzuki, Joe Akiyama, Harry Nikaido, Toru Tokawa, Mash Fukumoto and two others yesterday. Cardinals', girls team will be bolstered by two leading players from both Blubelles and Silver 7 when they oppose Kwashuettes.

Tickets for international affair are selling today at Akiyama Hardware Store at 35 cents reserved and 25 cents rush. Entire proceeds will go to Patriotic Services Appeal.

Kwashus, standing second in 9-team girls' loop, will probably send F. Fujii, M. Iwasaki, A. Hidaka, H. Iwasaki, R. Fujii, C. Daty, Y. Nakamura. M. Iwasaki has scored 20 points in five games.

Facing Kwashus will be Cardinal team bolstered by Pat Kawajiri and May Yoshinaka from Blubelles and Joyce Ikeda and Sally Kitaguchi from Silver 7.

Hornet members are S. Kawamura, T. Kubota, B. Honkawa, J. Fujihira, Nakamura, T. Karikomi, W. Tahara, J. Kawaguchi, R. Hosokawa, G. Inouye, H. Shinozaki, S. Karikomi.

Tom Nobuoka was named as a probable. Kay Hirano was not named.

Ski Slants...

By F. S. C.

Although every one below us groped about in the thick fog, nine members of Fuji Ski Club enjoyed the bright sunshine and pure crispy ozone of Grouse Mountain and most of all the fast powdery snow which means perfect skiing, Sunday

How we hated to go home to be swallowed into that damp fog. Perfecting their turns and forms were the order of the day while some skied to their hearts content, regardless of their form and style until well after 4.30.

Though skiing has not reached its full swing, treasurer Miss Kou Higashiyama wishes to collect all back fees (1939-40) by the end of the month. Starting the first Sunday in the New Year all members who have not paid up will be classified as a visitor and charged visitor's fee each time they come up until the fee is paid up. The 1940-41 fees are now payable.

In anticipation of many visitors this season we wish to make the following announcement to the public. Everyone is welcome but in order to defray the cost of tea, coffee, etc., non-members will be requested to pay the cabin manager a nominal fee of 35 cents for the day or 50 cents over-night for men and 15 cents for ladies and children.

Non-members may store their skiis at the cabin for a nominal charge of $1.00 per season, but at their own risk.

Due to lack of firewood this year members are prohibited to make a stay in the cabin more than one night by himself with his friend unless given permission by the secretary.

Recently the club took out fire insurance on the cabin and ski equipment. Members who wish to benefit from this are asked to get in touch with the secretary for further information.

We are sorry to hear that our invaluable member, Tuck Shimizu, is leaving us on January 3rd for a trip to Japan. On the other hand, we are glad that one of us is going to have the privilege of skiing at many famous ski centres of Japan, so we wish Tuck a bon voyage and good skiing!

Junior Cage Games Sat.

Junior basketball tilts Saturday are Monarchs-Trojans at 6 p.m. and Mikado-Marpole at 7.

HOKUTOKAI ACKNOWLEDGES

The donation of three dollars from Ty Sugimoto in commemoration of his wedding is acknowledged with thanks by the Hokutokai.

Harrys Win 6th Straight 34-30

Even a Californian threat made no difference to championship bound Harrys last night as they stretched their win streak to six by out-manoeuvring M. & N. comfortably to a 34-30 triumph. They accomplished the feat too sans the services of ailing Shige Ashikawa without whom Harrys are supposed to be second rate stuff.

George Hinaga the San Jose lad everybody was eyeing, gave a neat display of rapid-fire dribbling but due to strangeness to small floor perhaps, scored only four points. He was tricky and fast but had trouble finding the hoop.

It didn't jell into a "classic event" as had been hoped since Ashikawa and Goozie Suzuki couldn't play. However it gave the many customers some choice moments especially after M. & N. cut down an 8 point first quarter deficit to draw even at 13-all at the half.

Taking the limelight with a super-display was Baron Wakabayashi, he who is usually the badman working his heart out for the absent "great one" to tally 10 points, Harrys high. Baron couldn't do a wrong thing.

Kay Hirano, the man who has evidently been snubbed by appointment committee for All-Star berth against Seattle Hornets, wasn't exactly a drawback for M. & N. with 12 points or 32 points in four games.

Toru Tokawa, mediate ace, another All-Star maybe, filling in for Ashikawa, bagged his 6 points in last quarter when they counted most. Also attaining prominence was Tosh Hashimoto with a couple of pretty shots. Joe Akiyama, as usual, played as well as his language is opposite sometimes.

His lame ankle better, George Ide returned to match "So Big" Nobuoka's four digits, the latter being an All-Star choice, 'tis said if Coach Kinzo Fujioka approves.

MARPOLE WHIPS STEVESTON

Steveston got Michi Mori back and looked like they might go places but Marpole had other ideas and turned them back 47-37, the same ten point distance the fishermen couldn't bridge throughout last half. It was the Miike machine's fifth straight win.

Jinx Miike ran wild to boost his total by 23 points, and Yosh Fujioka looking better than in first game tallied 13 points, both by the way are not All-Star choices which is certainly none of our business, if the powers that be take notice.

Kunio Ichino sank a few beauties while Dave Naruse worked like a spartan for 11 and 10 points respectively. As Kichiji Nishi and Fred Nishi, Steveston brain-trust would say, "if only the team could have started with all members."

Harrys	10	13	23	34—34
M. & N.	2	13	21	30—30

Harrys: Hori 3, Tokawa 6, Onishi 2, Yanagisawa, Wakabayashi 10, Hashimoto 5, Akiyama 8.—34.

M. & N.: Ide 4, N. Nishio 2, Hirano 12, Yamada 3, Tanaka 1, Nobuoka 4, Hinaga 4.—30.

Marpole: Fukumoto 2, S. Miike 3, Fujioka 13, Koyanagi 4, J. Miike 23, Nakagawa 2.—47.

Steveston: H. Mukai 2, D. Naruse 10, Ichino 11, K. Mukai 1, Mori 9, K. Naruse 4.—37.

Royal City Taiiku Turkey Draw Coming Sunday

NEW WESTMINSTER—The drawing for ten large turkeys in New Westminster Taiiku Club's Christmas Raffle will take place this coming Sunday, December 22, from 2 p.m. at Queensboro Japanese School. The public is cordially invited to attend the drawing.

Tickets are rapidly being sold so those who wish to have a chance at the turkeys are urged to obtain the tickets as soon as possible from any of the members.

All members who have tickets out are asked to return the stubs to any of the executives before Saturday

Announcing...
HARRY'S
Clothes
Exclusive Tailored to Measure Suits
459 E. Hastings St.
HIgh. 2132
The Sale that you have been waiting for...
EXTRA PANTS FREE with every suit ordered this month.
You get the same quality workmanship and expert styling by The House of Stone's master craftsmen.
Come in early and select your cloth while the range is still complete.
Suits $27.50 and up
with FREE Extra Pants
TOPCOATS 10% off.